岡山県埋蔵文化財発掘調査報告　73

# 友野散布地
# 中原遺跡ほか

土地改良総合整備事業に
伴う確認調査

1989年3月

岡山県教育委員会

# 序

本報告書には，津山市中原，金井に所在する中原遺跡ほか，および，英田郡美作町友野に所在する友野散布地の確認調査の結果を収載しました。

この確認調査は，圃場整備事業の実施に先だって，埋蔵文化財の保護，保存のために必要な資料を得て，圃場整備事業との調整を図るために，昭和63年度国庫補助事業として実施したものであります。

調査の結果，中原遺跡ほかでは弥生時代から中世にわたる時期の遺構が検出でき，弥生土器や石器，中世の土器などが出土しております。友野散布地では，北接する友野城跡との関係が推定される中世の遺構が検出できました。これらの遺跡では，調査結果に基づき，関係機関等と協議を行った結果，遺跡の主要部分が保存されることになりました。関係者各位に厚く御礼申し上げます。

これ等の成果を収めた本報告書が，文化財の保護，保存のために活用され，また，地域の歴史を研究する資料として御活用いただければ，幸いと存じます。

最後に，発掘調査ならびに報告書の作成にあたって，岡山県文化財保護審議会委員をはじめ，関係の市町部局，市町教育委員会，同文化財保護審議委員，並びに土地所有者等関係各位から賜りました多大な御指導と御協力に対し，記して感謝の意を表わします。

平成元年３月27日

岡山県教育委員会
教育長　竹　内　康　夫

# 友野散布地（ともの）

# 例　　言

1．本書は，岡山県教育委員会が，英田郡美作町における団体営土地改良整備事業に伴い，昭和63年度国庫補助を受けて実施した「友野散布地」の発掘調査報告書である。

2．遺跡は，英田郡美作町友野81－1ほかに所在する。

3．発掘調査は，昭和63年5月11日から同年6月28日まで実施した。

4．発掘調査に当っては，専門委員の鎌木義昌（岡山理科大学理学部長），近藤義郎（岡山大学文学部教授），水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）の各氏から指導と助言を受けた。

5．T－17より出土した漆紙については，国立歴史民俗博物館永嶋正春氏より御教示と玉稿をいただいた。

6．発掘調査は，岡山県古代吉備文化財センター職員井上弘が担当した。

7．発掘調査にあたっては，美作町役場，美作町教育委員会，地権者等から多大な援助を受けた。

8．本書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は，第1，2，3，13図は真北，他は磁北である。

9．本書の作成編集は井上が行った。

10．第2図に使用した地形図は，国土地理院発行の50000分の1地形図（津山東部・周匝）を複製したものである。

11．出土遺物，実測図，写真等は岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325－3）に保管している。

# 目　　次

第１章　調査の経緯……3
第２章　地理的・歴史的環境……5
第３章　発掘調査の概要……7
第４章　まとめ……15
付　編　友野散布地出土漆紙について……17

# 図　目　次

第１図　遺跡の位置図……5
第２図　周辺遺跡分布図（１／50,000）……6
第３図　トレンチ設定図（１／ 4,000）……7
第４図　Ｔ－１～６，24，35，37平面図・断面図（１／100）……8
第５図　Ｔ－７～12，14～17断面図（１／100）……9
第６図　Ｔ－18～23，25～28断面図（１／100）……10
第７図　Ｔ－29～34，36断面図（１／100）……11
第８図　出土遺物（１／４）……12
第９図　出土遺物（１／４）……13
第10図　遺跡と友野城跡（１／3,000）……16

# 図 版 目 次

図版１－１　遺跡の全景（南から）
　　－２　遺跡の全景（西から）
図版２　Ｔ－１～７発掘状態
図版３　Ｔ－８～15発掘状態
図版４　Ｔ－16～23発掘状態
図版５　Ｔ－24～31発掘状態
図版６　Ｔ－32～37発掘状態，発掘・埋めもどし風景
図版７　出土遺物
図版８　Ｔ－17出土の漆紙

# 第1章　調査の経緯

## 第1節　調査に至る経過と調査体制

英田郡美作町友野において，土地改良整備事業が計画され，実施工事が具体化するなかで，美作町より岡山県教育委員会に対し協議がなされた。地域は周知の遺跡（『岡山県遺跡地図』第4冊）であり，かつて水路工事等で土器が出土していることもあって，その取扱いについて協議した。関係機関による協議の結果，(1)工事着工前に確認調査を実施する。(2)調査の結果，重要な遺構等が発見された場合は，その保存等について別途協議することとなった。この協議結果に基づいて，岡山県教育委員会は，工事施行前に遺跡の範囲，状況，遺存状態等を明らかにして，遺跡の保護保存のための基礎資料を得るための確認調査を実施することとした。確認調査は，昭和63年度国庫補助を受けて岡山県古代吉備文化財センターが実施した。発掘調査の期間は，昭和63年5月11日から，同年6月28日までである。

友野地区の工事施行が通年工事であることもあって，予定トレンチによる全体の状況が判明した6月20日に関係機関により，遺跡の取り扱いについて協議した。その結果，(1)，T－1を中心とする遺構の遺存状態の良好な区域は，計画水田面の標高を99m62cmとし，遺構を保存する。排水路については掘削せざるを得ないため，トレンチの増設等で対応する。(3)暗渠排水については，工事中に立会することで合意し，実施に移された。

発掘調査にあたっては，専門委員の指導・助言を得た。また，美作町役場，美作町教育委員会はじめ，地元の地権者等からは多大な協力を得た。記して衷心より感謝の意を表わします。

**調査体制**

岡山県古代吉備文化財センター

| | |
|---|---|
| 所長 | 水田　稔 |
| 総務課長 | 佐々木清 |
| 調査第一課長 | 河本　清 |
| 課長補佐 | 井上　弘　（調査担当） |

発掘作業員

安川敏　野口定一　安川亀壽　野口節男　安川文夫　杉山正己　安川二夫　安田作良
清水秋安　小阪田きぬよ　安川峯子　安田允子　安川智恵子

# 第2節 日誌抄

5月11日(水) 発掘資材の搬入　T－1，2，8の設定と掘り下げ

12日(木) T－27，31，33，34の設定と掘り下げ　T－33，34掘り下げ完了

13日(金) T－33，31写真撮影，T－15，20，27掘り下げ

16日(月) T－22，28写真撮影　T－15，29，30掘り下げ

17日(火) T－20，27，29写真撮影　T－19，25，26掘り下げ　T－31実測

18日(水) T－19，25，26，30写真撮影　T－23，30，8掘り下げ　T－28，29，30，33，34実測

19日(木) T－8，23，32写真撮影　T－2，7，13，16，掘り下げ　T－15，19，20，22，25実測

20日(金) T－16写真撮影　T－12，13，14，16掘り下げ　T－13，14から鉱滓出土　T－8，23実測

23日(月) T－12，13写真撮影　T－11，12，16掘り下げ　T－26実測

25日(水) T－3，4，7，11写真撮影　T－1，9，17掘り下げ　T－1は南へ拡張

26日(木) T－2，17，9写真撮影　T－1，10，6掘り下げ　T－11，12，14，16実測

27日(金) T－6，10，18掘り下げ　T－3，4，7，9，17実測

30日(月) T－6，10，18写真撮影　T－5，21掘り下げ　T－1遺構の掘り下げ　T－10実測

6月1日(水) T－5掘り下げ　T－1土壙の掘り下げ　T－16，18実測

6日(月) T－1土壙の掘り下げ　土器多量に出土　T－24，36掘り下げ　T－35石敷の検出　T－5，21写真撮影，実測

8日(水) T－1土壙の掘り下げ　T－36掘り下げ

10日(金) T－1土壙の掘り下げ　T－36掘り下げ　T－18埋めもどし　T－24実測

13日(月) T－36掘り下げ　T－2柱穴の掘り下げ　T－3，4，23，25埋めもどし

14日(火) T－2，24，25遺構の掘り下げ　T－2，36，35実測　T－23，26，31，32，33，34埋めもどし

15日(水) T－24，35実測　T－20，22，28，29，30，31埋めもどし

16日(木) T－1遺構の実測　トレンチの位置を平板測量　T－15，16，19，27埋めもどし

17日(金) T－1遺物の取り上げ，補充測量T－11，13，14埋めもどし

20日(月) T－37掘り下げ　T－12埋めもどし

21日(火) T－37遺構の検出，写真撮影，実測　T－9，10，21埋めもどし

22日(水) 平板実測　T－17，24，35，36埋めもどし

23日(木) T－7，37埋めもどし

27日(月) T－1，5埋めもどし

28日(火) 発掘資材の清掃，資材の撤収

# 第2章　地理的・歴史的環境

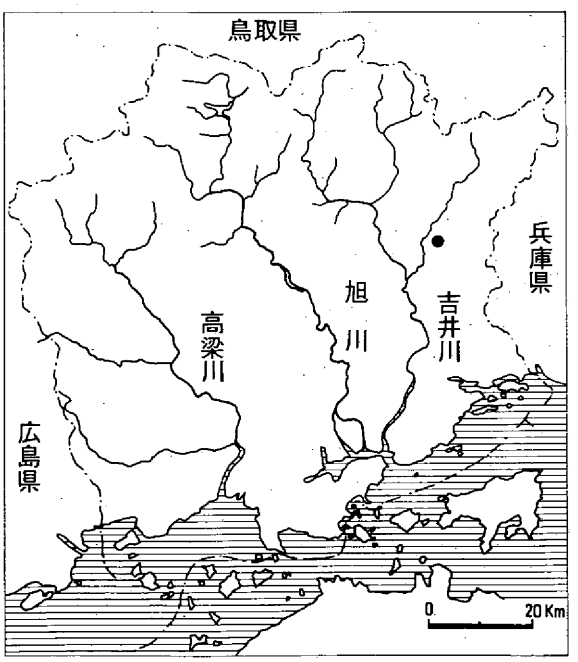
吉井川の支流に吉野川がある。西粟倉村に源を発するこの川は，作東町江見付近から西流して林野に至る。林野では，梶並川と合流し，さらに南流して周匝で吉井川に合流する。美作町友野は，この吉野川流域にあって，林野の東約3㎞の位置にある。遺跡の付近は，山合を流れるもので，流域に沿って狭小な平地が展開している。

美作町内の遺跡の分布を見ると，吉野川流域よりも，梶並川流域の豊国原を中心とした地域に多くの遺跡を見ることができる。この地域は，中国縦貫自動車道の建設に伴い，狼谷遺跡，北山古墳群，鎌倉山遺跡等を調査した。狼谷遺跡は，弥生時代中期の集落跡である。北山古墳群は，古墳時代後期の古墳群と，その下層に弥生時代中期の集落跡が存在した。鎌倉山遺跡は，弥生時代後期から，古墳時代前期にかけての集落跡である。

古墳を見ると，豊国原を望む丘陵上に前方後円墳をはじめとし多くの古墳が位置している。前半期の古墳としては，金焼山古墳，寺山古墳等が所在する。後期古墳としては，陶棺の出土が知られており，特に同町平福出土の馬を引く人物文様の見られる陶棺は有名である。

歴史時代の遺構としては，白鳳時代から平安時代の瓦を出土する楢原廃寺が存在する。

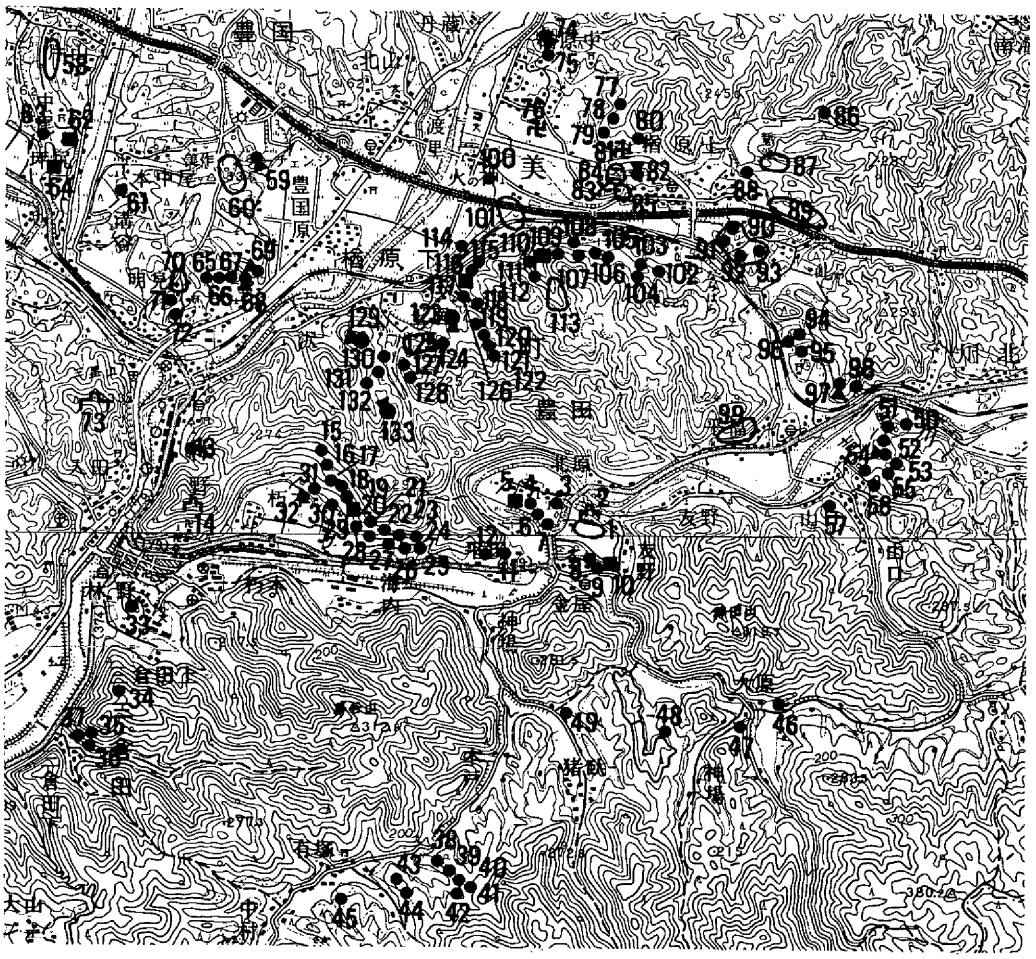
中世のものとしては，城郭がある。林野城跡は，林野の背後に所在するもので，吉野川と梶並川の合流地点にあり，天然の要害をなしている。三星城跡は，梶並川を狭んで西側に林野城と対峙して所在している。




第1図　遺跡位置図(黒丸印)

参考文献

『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』4　1973
岡山県教育委員会
『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』7　1975
岡山県教育委員会
『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』13　1976
岡山県教育委員会
『日本城郭大系』13　新人物往来社　昭和55年



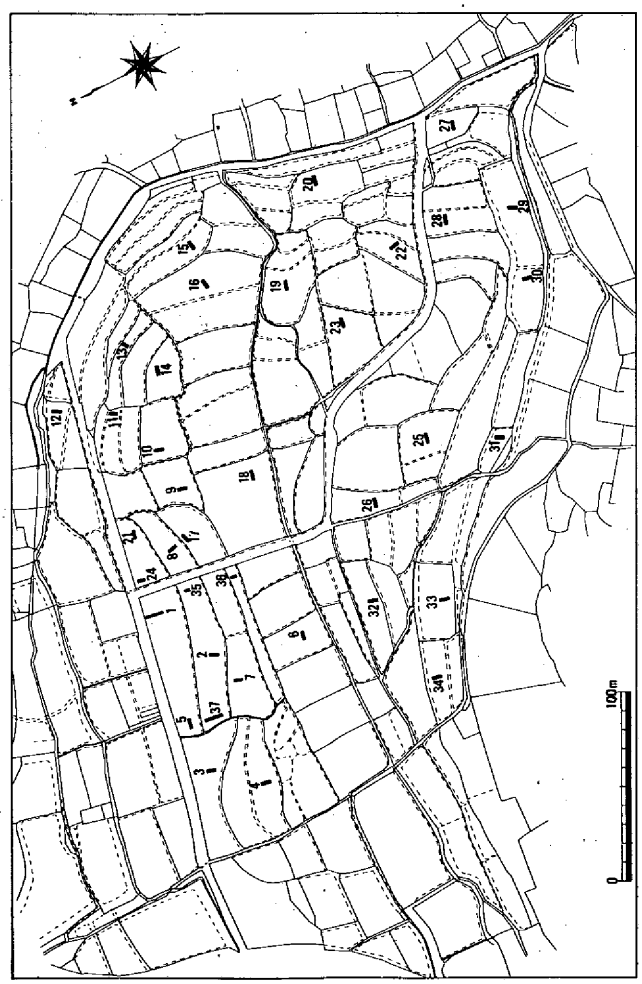

**第２図　周辺遺跡分布図（１／50,000）**

1．友野散布地
2．友野城跡
3．北原３号墳
4．北原１号墳
5．北原２号墳
6．兼行２号墳
7．兼行１号墳
8．金屋２号墳
9．金屋１号墳
10．金屋３号墳
11．平田１号墳
12．平田２号墳
13．狐塚古墳
14．林野城跡
15．別所４号墳
16．別所３号墳
17．別所６号墳
18．別所５号墳
19．別所７号墳
20．別所８号墳
21．別所11号墳
22．別所15号墳
23．別所14号墳
24．別所18号墳
25．別所17号墳
26．別所16号墳
27．別所13号墳
28．別所12号墳
29．別所10号墳
30．別所９号墳
31．別所２号墳
32．別所１号墳
33．長大寺古墳
34．三倉田上古墳
35．三倉田下２号墳
36．三倉田下１号墳
37．三倉田下３号墳
38．四連塔２号墳
39．四連塔３号墳
40．四連塔１号墳
41．四連塔４号墳
42．四連塔５号墳
43．四連塔７号墳
44．四連塔６号墳
45．釈塔古墳
46．流尾古墳
47．大原古墳
48．三昧塚古墳
49．猪臥古墳
50．山口５号墳
51．山口４号墳
52．山口７号墳
53．山口６号墳
54．比丘古墳
55．山口３号墳
56．山口２号墳
57．山口１号墳
58．鍛冶屋滝遺跡
59．鎌倉山古墳
60．鎌倉山古墳
61．当福古墳
62．坪尻１号墳
63．坪尻３号墳
64．坪尻２号墳
65．西山５号墳
66．西山４号墳
67．西山３号墳
68．西山２号墳
69．西山１号墳
70．宮谷古墳
71．庵山１号墳
72．庵山２号墳
73．三星城跡
74．金焼山１号墳
75．金焼山２号墳
76．栖原廃寺
77．上絡塚３号墳
78．上絡塚２号墳
79．上絡塚１号墳
80．裏山古墳
81．恵眠寺跡
82．岡ノ上古墳
83．藤ノ木古墳
84．散布地
85．裏山小学校遺跡
86．五郎谷古墳
87．新池東遺跡
88．神宿１号墳
89．神宿遺跡
90．古池北遺跡
91．中山古墳群
92．権現塚古墳
93．近上塚古墳
94．狐塚１号墳
95．宮後古墳
96．狐塚２号墳
97．録霄塚古墳
98．岩王座古墳
99．野寺山古墳
100．大塚古墳
101．丸山遺跡
102．向山古墳
103．前田２号墳
104．前田１号墳
105．前田３号墳
106．前田４号墳
107．薬園１号墳
108．薬園２号墳
109．薬園３号墳
110．薬園４号墳
111．狼谷２号墳
112．狼谷１号墳
113．狼谷遺跡
114．西郷古墳
115．坂元１号墳
116．坂元３号墳
117．坂元２号墳
118．上土居１号墳
119．寺山東４号墳
120．寺山東３号墳
121．寺山東２号墳
122．寺山東１号墳
123．寺山１号墳
124．寺山２号墳
125．猿屋谷遺跡
126．上井谷２号墳
127．猿屋谷２号墳
128．猿屋谷１号墳
129．髪櫛山古墳
130．宮ノ畝１号墳
131．宮ノ畝２号墳
132．宮ノ畝４号墳
133．宮ノ畝３号墳

# 第３章　発掘調査の概要

発掘調査は，圃場整備予定地内全体へトレンチを37本設定した。トレンチ設定の位置は，第３図に示すものである。

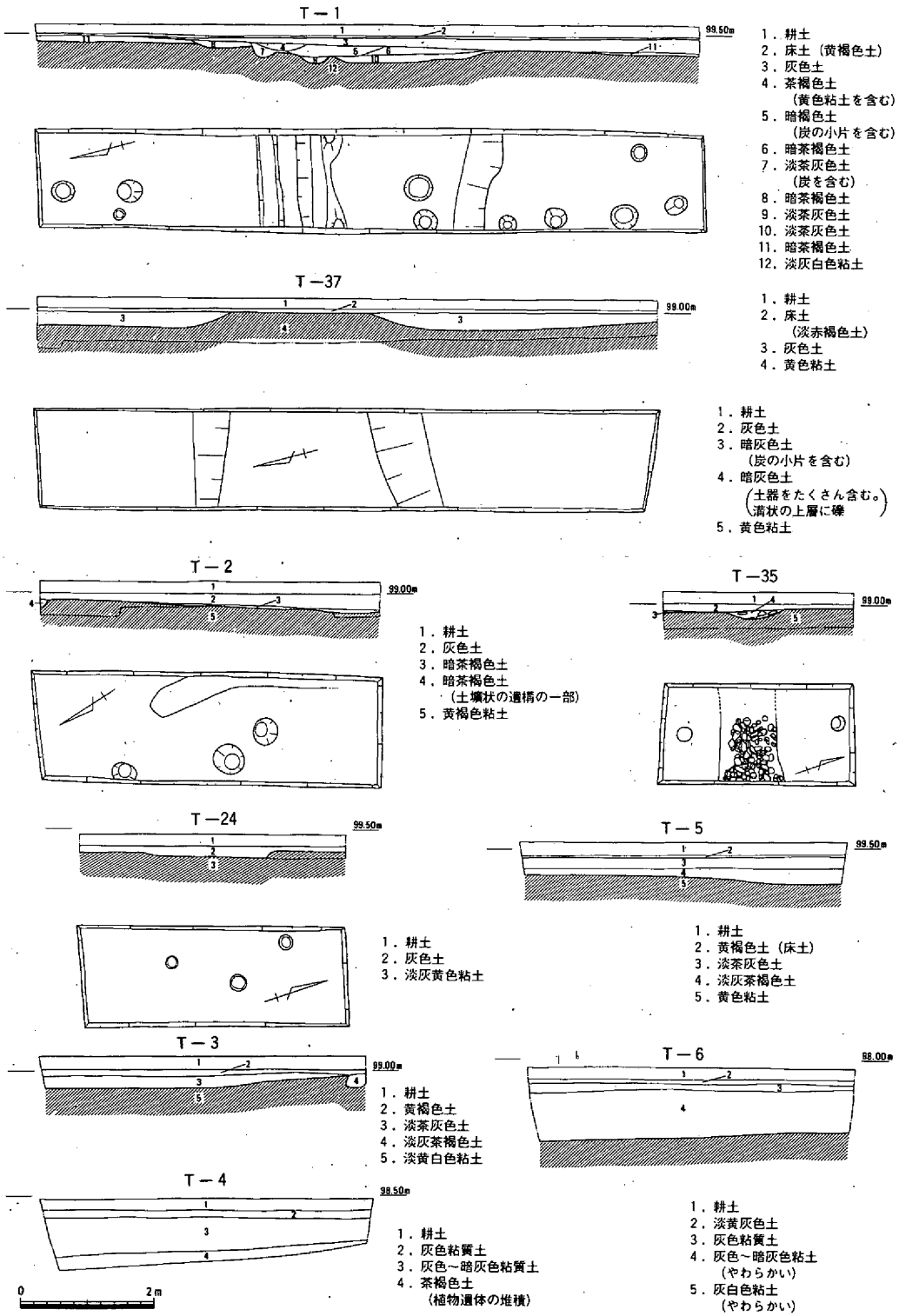
Ｔ－１　トレンチの北側では，耕作土直下から中世の包含層を検出し，多くの遺物が出土した。トレンチの南側では，包含層の上層に灰色土の堆積が見られる。包含層除去後の遺構の検出では，柱穴10本，溝状遺構３本を検出した。溝状遺構は，ほぼ東西を向くもので，第５層から多量の土器が出土した。（第８・９図１～48・58～79・94～96・101～105）柱穴は直径30～40cm，深さは20～45cmを測るものである。出土遺物としては，土師器小皿，同椀，白磁，須恵質甕等が出土している。



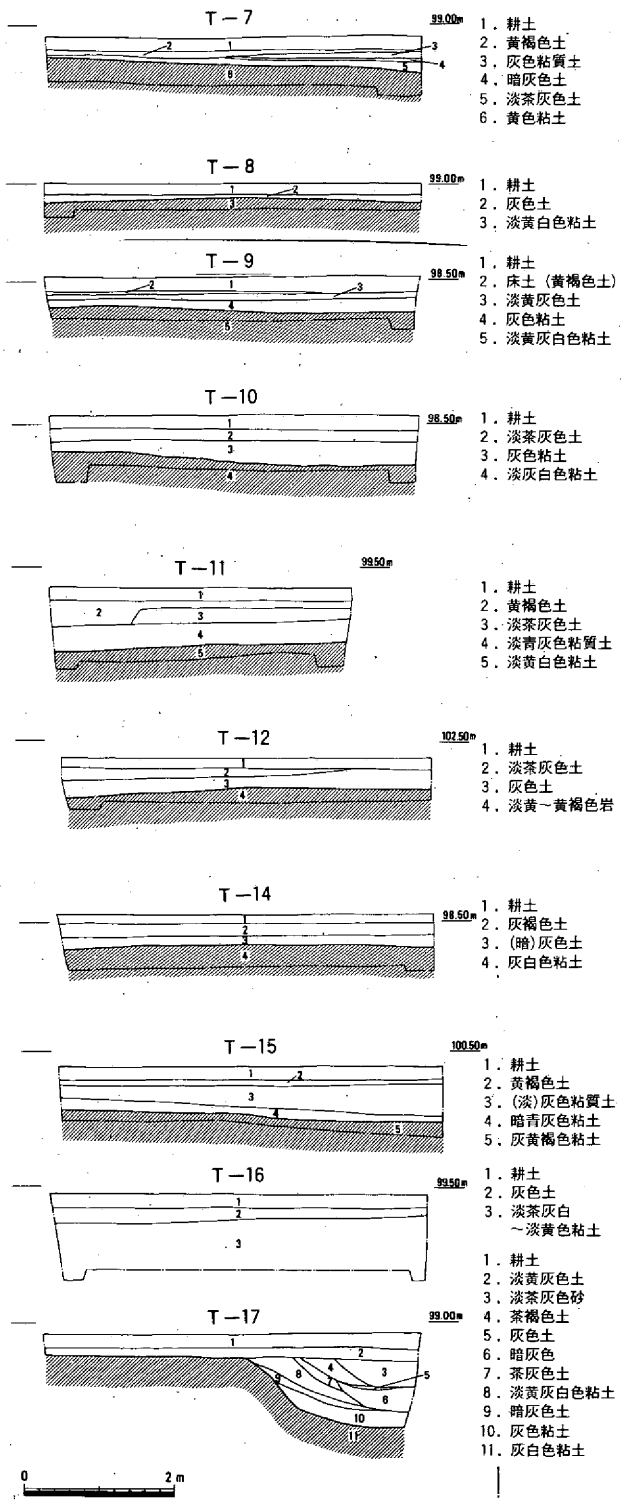

第３図　トレンチ設定図（１／4,000）

Ｔ－37　トレンチの長軸方向に直交する状態で，台形に削り出された黄褐色の地山を検出したものである。台形に削り出された頂上部は，耕作土直下において検出され，耕作により削平されているものと考えられる。削り込まれた部分はＴ－１の第３層と同じ灰色土で埋っていた。台形状の遺構もほぼ東西を向くものと考えられる。

Ｔ－２　耕作土の下層に灰色土が有り，その下に暗茶褐色を呈する包含層が存在する。包含層は，トレンチの北端では観られず南に向けて厚さを増しながら堆積している。包含層の下層で柱穴３本と溝状遺構１本を検出した。柱穴は長径40～50cmを測るもので，検出面からの深さは40～50cmを測る。出土遺物としては，小片であるが，中世の土器が出土（第８図49，第




**第4図　T－1～6，24，35，37平面図・断面図（1／100）**




**第5図　T－7～12，14～17断面図（1／100）**

9図97）している。

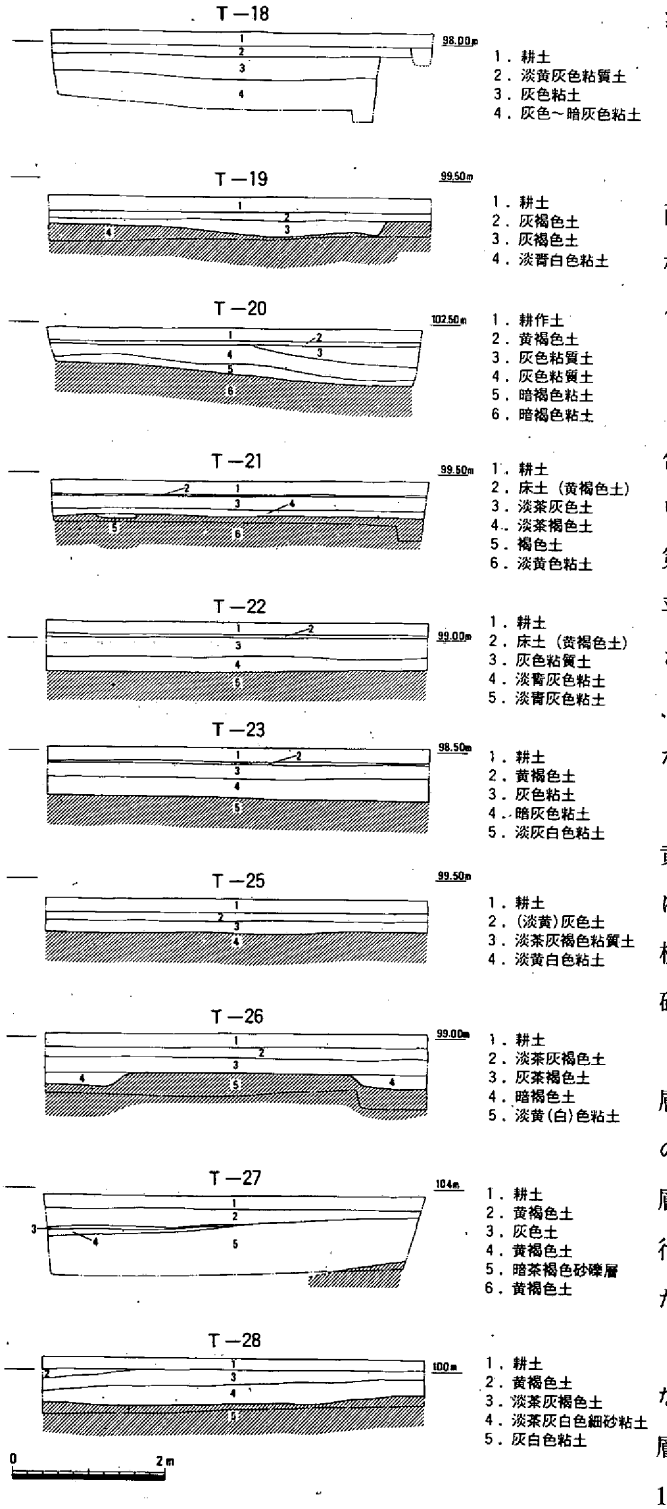
**T－3**　耕作土の下に床土があり，その下層に淡茶灰色土がある。その下層は淡黄白色を呈する粘土で自然層となる。出土遺物は有るが，明確な遺構は検出されなかった。

**T－5**　第3層まではT－3と同じであるが，第4層にT－1・2で見られた包含層に近い土層があるが，遺構は検出されなかった。

**T－4**　各層とも非常に柔かいシルト層で，現在も湿地を呈する水田である。第3層は湿地のヘドロが堆積した状況を呈するもので，第4層は植物遺体の堆積層である。第4層の下は淡白色を呈する粘土層で，自然層となり，南に向けて深くなる。

**T－6**　T－4と似た層序を呈するもので，T－4と同じく第4層は湿地の状況を呈するものと考えられる。

**T－35**　耕作土の下層に灰色土があり，その下は黄色粘土の自然層となる。黄色粘土層の上面において，円礫を多く含む溝状遺構を検出した。遺構内には円礫と小破片ではあるが，中世土器が多く出土した。溝状遺構は，ほぼ東西を向くものである。トレンチの両端に検出した柱穴は，長径約20㎝，




第6図　T－18～23・25～28断面図（1／100）

深さ38cmを測るものである。

T－24　耕作土の下に灰色土があり，その下層は淡灰黄色を呈する粘土層となる。この粘土層の上面において柱穴3本を検出した。柱穴の長径は15～25cm，深さは10～33cmを測るものである。

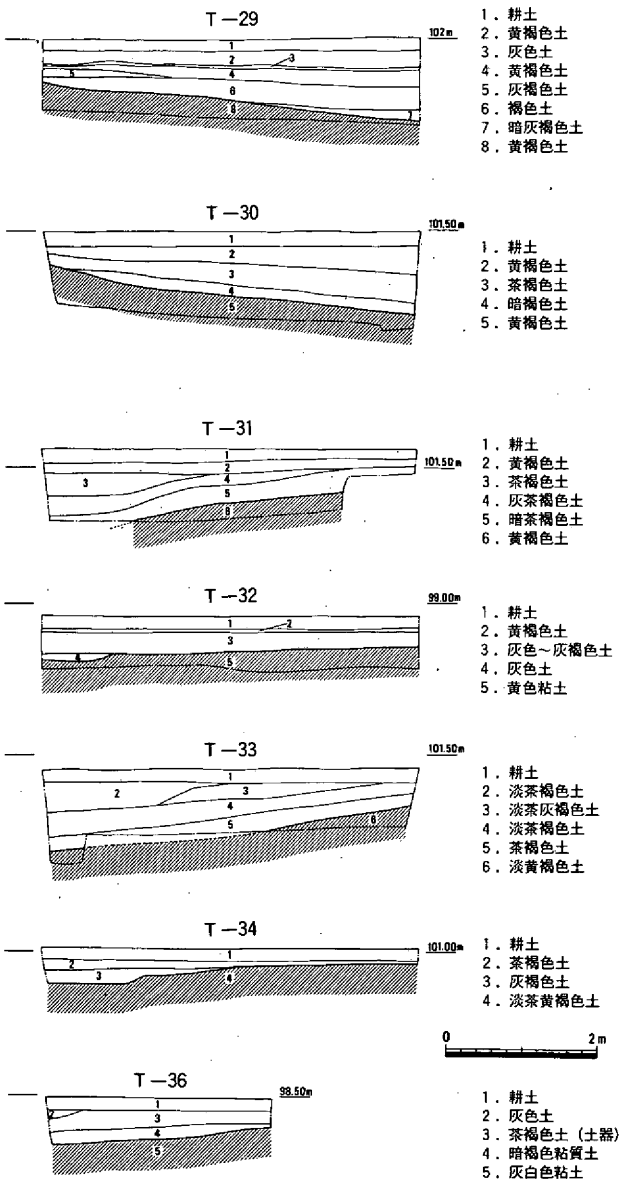
T－7　第3層は，T－1の第3層に相当するもので，第4層は包含層で，中世の遺物が出土している。

第3・4層は北側を耕作により削平されているが，古い地形を残存させているものと考えられ，このトレンチからは遺構は検出されなかった。

T－8　約20cm掘り下げると淡黄白色粘土の自然層となり，非常に浅いレベルで地山を検出した。検出した地山面においては遺構は確認されなかった。

T－9　第4層がT－1の第3層に相当するものと考えられるもので，その下層の淡黄白色の粘土層上面において遺構の検出作業を行ったが，遺構は検出されなかった。

T－10・12・14　ほぼ似たような層序を示すもので，自然層の上層に灰色土の堆積が見られる。T－13・14の地山直上層からは，まとまった量の鉄滓の出土が見られた。




第７図　Ｔ－29～34・36断面図（１／100）

Ｔ－15　第５層は灰黄褐色を呈する粘土層で，自然層となる。上層には灰色土の堆積が見られ土鍋片（第９図93）青磁片等が出土している。遺構は検出されなかった。

Ｔ－16　地表下30～40㎝で灰白色の粘土層の地山となる。その上層には灰色土の堆積が見られるが，遺構は検出されなかった。

Ｔ－17　トレンチの東半に溝状遺構を検出した。ほぼ南北を向くものと考えられるが，上端の幅は未調査のため不明である。溝の深さは約１ｍで，埋土から中世土師器椀，小皿，鉄滓，瓦質土器とともに漆紙が出土（第８，９図50～57・17～89・100・106）した。

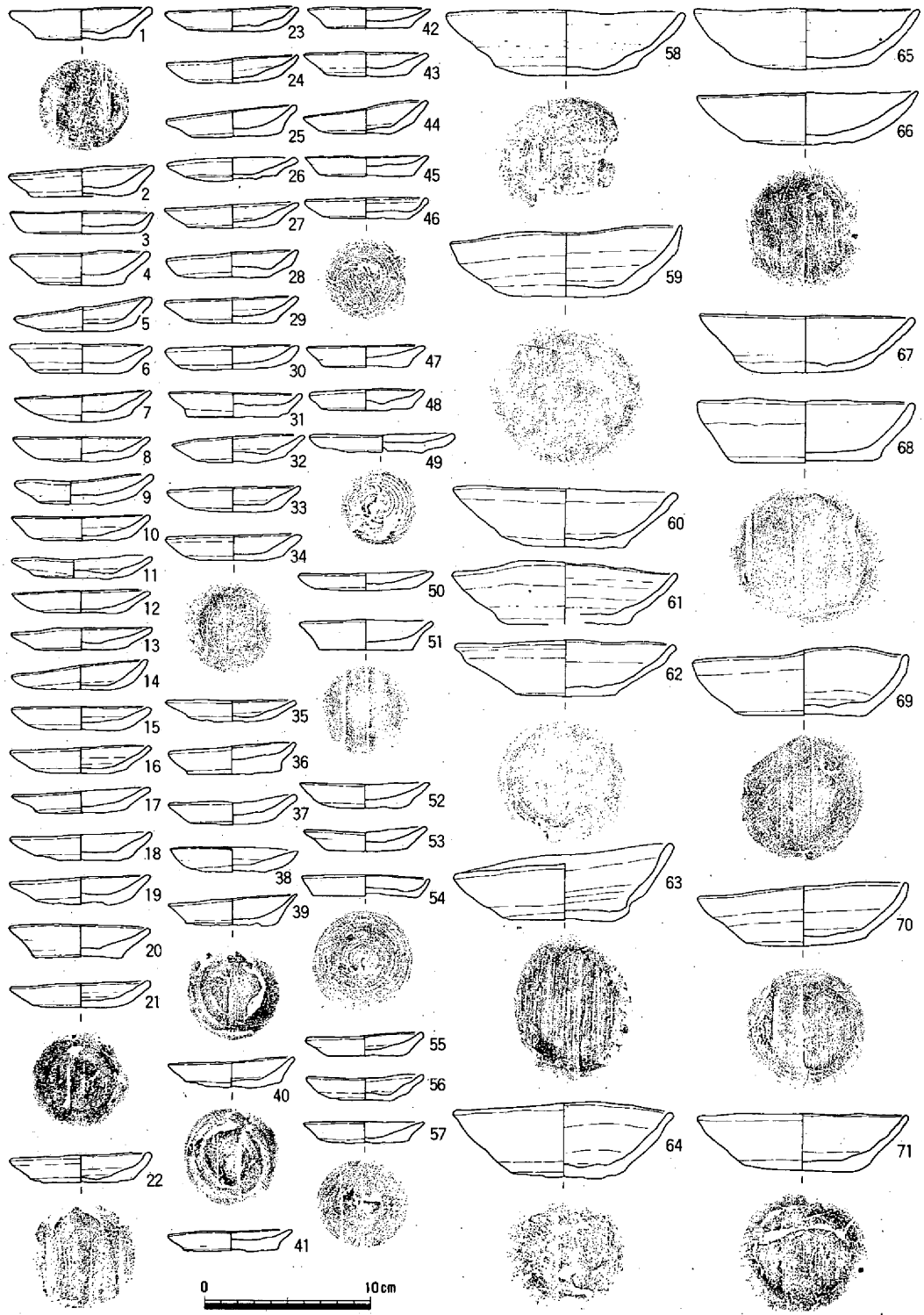
Ｔ－18　Ｔ－６と層序が似るもので，第３・４層は非常に柔かく，泥質土の堆積した状況を呈するものと考えられる。

Ｔ－19　第３層は暗渠の掘方である。本来の地山面を検出したが，遺構の検出は見られず，瓦片，須恵器片（第９図88～91），鉄滓等が出土している。

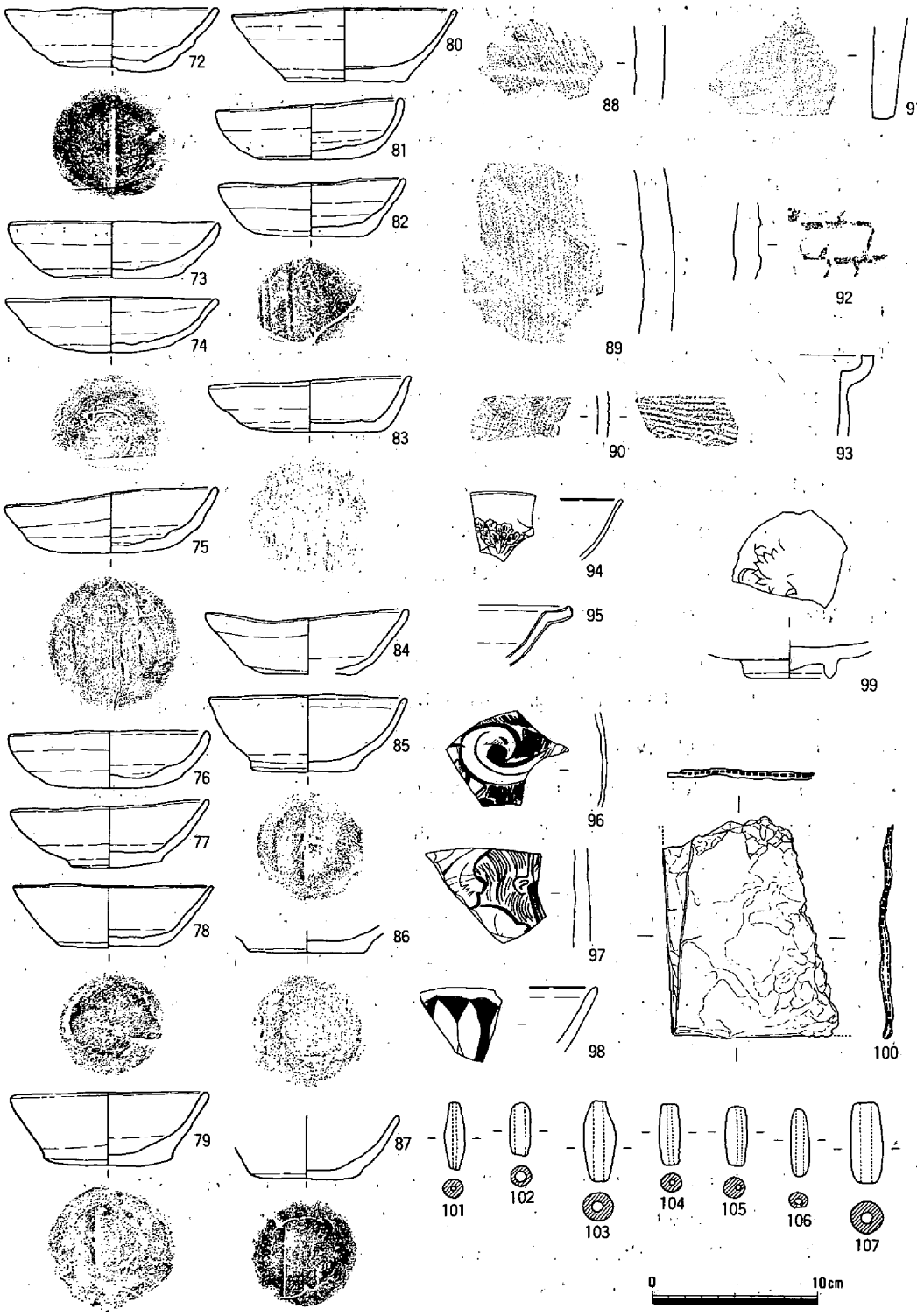
Ｔ－20　耕土の下に灰色粘質土があり，礫を含むもので，東側の丘陵からの流れ込みが考えられる。

Ｔ－21　Ｔ－１の層序と似るものがある。淡黄色粘土層の上面で，４～５個所に褐色の５～６㎝の落ち込みが見られたのは，柱穴の底部の可能性も考えられる。

Ｔ－22　第４層以下は自然層と考えられるもので，上層の灰色粘質土層から若干の出土遺物が見られた。




第8図　出土遺物（1 / 4）


72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
0
10cm

第9図　出土遺物（1／4）

T－23　第5層は自然層で，第3・4層は明瞭に分けられるものではなく，徐々に変化していくものである。

T－25　T－21の層序に似るものがあるが，第4層上面において遺構は検出されなかった。

T－26　第5層は淡黄色粘土の自然層で，この層に掘り込まれた溝状の遺構を検出した。第2・3層から瓦片（第9図92）等少量の遺物が出土している。

T－27　第3層が灰色土で，T－1の灰色土に相当するものと考えられる。第5層は角礫の堆積層で，トレンチの東端に黄褐色の粘土層を検出したが，南側は深くて検出できなかった。

T－28　第5層から自然層となるもので，第4層から須恵器の小片が1点出土している。

T－29・30・31　丘陵の北斜面のトレンチで，いずれも斜面を開墾して水田としているものでT－29の第6層より奈良時代の須恵器小片が1点出土している。

T－32　第5層は黄色粘土の自然層で，上層に灰色土が堆積するものである。

T－33・34　丘陵の北斜面のトレンチで，丘陵からの再堆積の見られるものである。

T－36　T－1の層序に似るものであるが，灰色土のほとんどは耕作により削平されている。第3層は包含層で，第4層からはほとんど遺物は出土しなかった。

**出土遺物**（第9・10図　図版7）

各トレンチから遺物は出土しているが，最も多く出土したのはT－1である。溝状遺構の埋土から出土したもので，中世の土師器椀，小皿が多量に出土した。椀の内外面はヨコナデが施され，底面は回転ヘラ起し後板目が見られる。小皿も，底面が回転ヘラ起しのものと糸切のものとが見られる。ヘラ起しのものには，板目が見られる。椀の口径は14.5～12cmを測るもので，口径で分けると，A類は14cm以上，B類は13.9～13cm，C類は12.9～12cmの3グループが見られる。県南部の早島式土器椀と形状が異なるため比較[註1]にはならないが，法量で対応させてA類を13世紀前半に，B類を13世紀後半に，C類を14世紀前半に一応考えておきたい。94は白磁碗で，内面に花文のスタンプが見られる。95・98は龍泉窯系の青磁で，96・97は白磁の瓶の一部で，99は見込部分に花文のスタンプの見られる青磁である。100は，T－17から出土したもので，漆紙[註2]を4ツ折りにしたものである。

**註**

註1　高畑知功「樋本遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』65　岡山県教育委員会　1987年3月
鈴木康之「鹿田遺跡出土の中世土器について」『岡山大学構内遺跡発掘調査報告』第3冊「鹿田遺跡」I　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　1988年

註2　詳細については，本書の報文を参照

# 第4章 ま と め

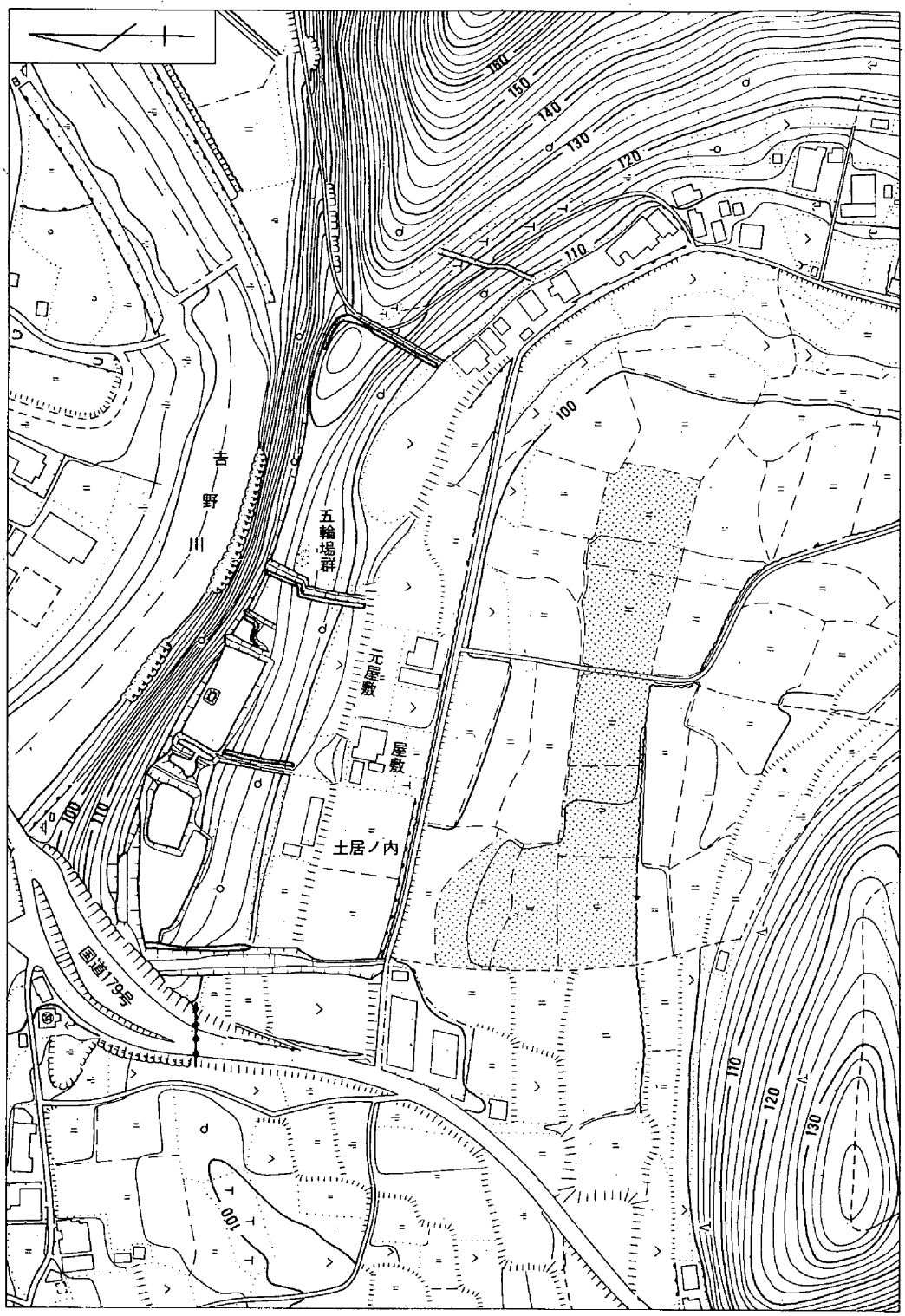
発掘調査の結果，遺構を検出したのは，T－1，2，24，17，35，36，37である。検出した遺構も13～14世紀と推定されるもので，検出地区も限定されることもあって関連する一群である可能性は高い。それ等の遺構が立地する部分は，水田の形状からも一段高い位置を区画する形状が見られる。T－4，6，18は，水田化される以前は湿地であった状況を呈している。(第10図アミ目）ここが湿地であったことは，小字名に「橋ノ下モ」「橋ノ内」と湿地を渡る橋が存在したと推測されることからもうかがえる。何時頃湿地であったか定かではないが，江戸時代の検地帳では，現在のように水田を呈していたと考えられることから，それ以前のことである。T－13，14付近からは，布目瓦と伴に鉄滓が出土している。他のトレンチにも若干の鉄滓が見られるものの，特にこの付近が多い。時期的に明確ではないが，中世もしくはそれ以前と考えられる。T－12は，「大門」と呼ばれる水田であり，何らかの遺構を期待したが検出されなかった。すぐ北側の斜面からかつて土器が出土しているが，今回は確認できなかった。

調査の結果T－1等で検出した遺構は，13～14世紀のものであるとすれば，調査区域の北側に存在する友野城跡との関係が推測される。城跡は，東西に延びる尾根上に造られた連郭式の山城で，西端と東端に堀切が見られる。間に見られる2本の竪堀も，西端の堀切と同じく現在の道路まで続いていた可能性は強い。特に，東から2本目の竪堀と，T－17の堀状遺構とは続く可能性を考えたい。第10図アミ目部分の湿地が友野城跡と同時代であるなら，泥田堀の状況を呈するものとされ，西端の堀切はこの泥田堀と一体のものとなり，東側のみが陸続きの状態となる。東端の堀切は，T－12付近まで延びる可能性は強く，堀切の内側に門構を造る。また東から二本目の竪堀を湿地帯まで延ばすことにより東からの防御線は強固になると考えられる。つまり，南側の防御面は湿地帯であり，北は吉野川とそれに続く急崖であり，西は堀切で切断されることになる。また，「土居ノ内」「屋敷」「元屋敷」といった地名も見られ，城跡と居住区が一体となった城郭をそこに想定することができる。その居住区の一角が今回の調査で判明した地区と推定される。

遺構の特に集中する部分は，今回保存されることとなったが，その北側にも関連する遺構が予測されるため，今後の開発にあたっては，これ等の事実を踏まえて関係者の間の連絡と充分な協議のもとに対処する必要がある。

参考文献

『日本城郭大系』13　新人物往来社　昭和55年




第10図　遺跡と友野城跡（1 / 3,000）

# 付編　友野散布地出土漆紙について

国立歴史民俗博物館
情報資料研究部　永　嶋　正　春

## 1．はじめに

本資料は，中世の山城に関連して掘られた堀の底から検出されたもので，伴出の土器から13世紀前半～14世紀初めに比定されているが，恐らく13世紀のなかに納まるものと考えられている。資料はその外見から見てもすぐに漆紙と判断できるものであるが，後述のように細部にわたる検討の結果としてもその判断が肯定される。

小規模な発掘によるためか，漆に関連する資料は他には検出されておらず，この漆紙がこの遺跡においてどのような意味合いを持ち得るかについては十分検討することができないが，漆紙そのものについての内容や性格を把握することも重要であり，以下にその調査結果を報告する。

## 2．調査結果

資料については，肉眼，顕微鏡，赤外線テレビによる表面観察の後，微小な試料片を採取し，それらの層断面試料を作製して内容物についての検討を行った。

(1)　資料の観察

漆紙は四つ折りにして廃棄されており，現存重量は約28グラム。大半の部分で四重の重なり（図版８－３）が観察できるので，ほぼ均等に折り曲げたものと推察できるが，元の漆紙の形態に復元した場合，現状では本来の正円形には復し得ない。これは資料の二辺に相当する割れ断面の内，一辺についてはそれに連続する漆紙の部分を欠失しているためと判断する。漆紙の円周部に相当する顕著な痕跡は残存していないので，数値の特定はでき難いが，この漆紙の用いられていた漆液の桶としては，内径が少くとも27cmあるいはそれ以上あったものと想定してよい。かなり大型の漆桶である。

漆紙の場合，反故紙としての文字の存在の有無が問題になるが，この漆紙の場合，現存状態では両面には文字が無いことが既に発掘調査担当者により確認されている。漆紙の現存外表面部には，微小な木炭片，繊維状植物片と共に，粘土様汚れが全面に薄く付着しているため，紙の繊維を直接観察することが困難であるが，筆者による赤外線テレビ画像の再度の観察によっても墨痕らしきものは全く認められなかった（図版８－１，２）。他の面については観察不能で

あるが，恐らくさらの紙を使用したのであろう。

使用されている紙であるが，資料の外観的性状から紙を想定しているものの，汚れと漆の付着のために実際に紙の繊維を観察できる部分はほとんど無く，汚れの剥落した個所等の小部分に見える紙の様相（図版８－４）からだけでは，紙そのものについての検討は困難である。ここでは，次の層断面試料に見える紙あるいは紙の繊維の様相（図版８－６，７）を参考にして，紙の厚さは0.07㎜前後，紙の繊維の横断面は９μm×17μm前後であることを指摘するに留める。

(2) 層断面試料

漆紙のなかではやや厚手の部分についての断面を図版８－５に示す。この図の最下方に見える層が紙の層であり，この紙に厚さ0.8㎜ほどの漆が付着している様子が観察される。漆紙廃棄時には，当然ながらこの漆層を内側にして折り畳むわけであり，したがって最初に二つ折りした時点で，大部分の個所においては未乾固の漆層が相互に付着し合い，現状の姿に至る。誠料の層断面からは，用いられている紙が一枚であったと判断できるが，そのままではあまりに薄くまた通気性もあるため，事前に何らかの処理が施されていたものと思われるが，層断面からは確認できない。

漆層の内容物としては，漆以外の素材たとえば，鉱物微粒子などは確認されず，純粋の漆のみからなることがわかるが，層厚方向での微視的なむらの存在，不均一さ（図版８－５，７）は，この漆が生漆であることを示すものと考える。この不均質さは（図版８－８）にみるような微小体（径が0.数μm～数μm）の分布密度及び粒径の片寄り方に起因する。

## ３．ま と め

友野散布地出土の漆紙を検討し，それが大きな径を有する生漆桶の漆紙であることを明らかにした。友野散布地において持つ漆紙の意味合いについては，今後の課題である。

最後に，調査の機会をおつくりいただいた井上弘氏をはじめ調査員の方々に誌上を借りて御礼を申し上げると共に，できれば本資料についての更に厳密な検討を行い，この報告を補完したい。

図版 1

1．遺跡の全景（南から）

2．遺跡の全景（西から）

# 図版2

1．T－1　遺構の検出状態（南から）

5．T－4　発掘状態（南から）

2．T－1　遺物出土状態（東から）

6．T－5　発掘状態（東から）

3．T－2　発掘状態（南から）

7．T－6　発掘状態（北から）

4．T－3　発掘状態（南から）

8．T－7　発掘状態（北から）

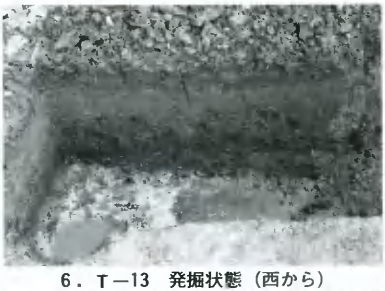
T－1～7　発掘状態

図版 3

1．T－8　発掘状態（北から）

5．T－12　発掘状態（南から）

2．T－9　発掘状態（南から）



6．T－13　発掘状態（西から）

3．T－10　発掘状態（南から）

7．T－14　発掘状態（東から）

4．T－11　発掘状態（北から）

8．T－15　発掘状態（東から）

T－8～15　発掘状態

# 図版 4

1．T－16　発掘状態（西から）

5．T－20　発掘状態（東から）

2．T－17　発掘状態（南から）

6．T－21　発掘状態（西から）

3．T－18　発掘状態（北から）

7．T－22　発掘状態（北から）

4．T－19　発掘状態（西から）

8．T－23　発掘状態（西から）

T－16～23　発掘状態

図版 5

1．T－24　発掘状態（北から）

2．T－25　発掘状態（東から）

3．T－26　発掘状態（東から）

4．T－27　発掘状態（東から）

5．T－28　発掘状態（東から）

6．T－29　発掘状態（南から）

7．T－30　発掘状態（南から）

8．T－31　発掘状態（北から）

T－24～31　発掘状態

# 図版 6

1．T－32　発掘状態（北から）

4．T－35　発掘状態（西から）

2．T－33　発掘状態（北から）

5．T－36　発掘状態（北から）

3．T－34　発掘状態（北から）

6．T－37　発掘状態（北から）

7．発掘風景

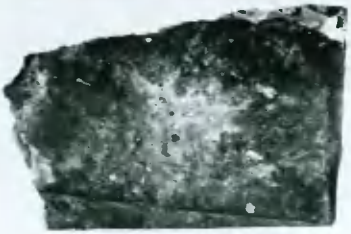
8．埋めもどし風景

T－32～37　発掘状態・発掘・埋めもどし風景

図版7

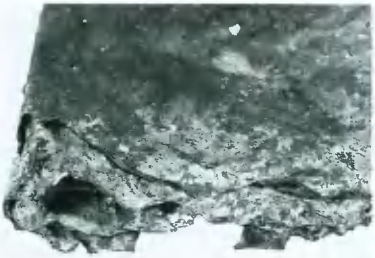
出土遺物

# 図版 8

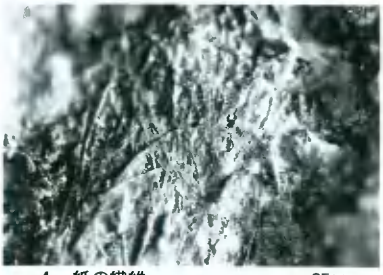


1．赤外線テレビ画像　0.4×

2．赤外線テレビ画像　0.4×

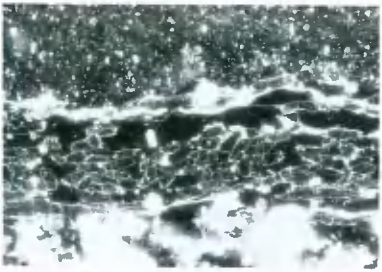


3．漆紙部分　1.2×



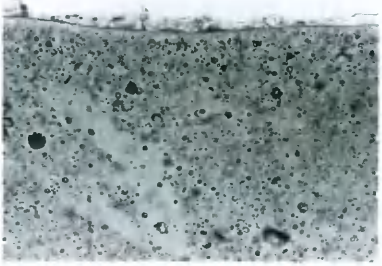
4．紙の繊維　25×

5．漆紙の断面　25×



6．紙の繊維断面（横断面）　180×

7．漆紙の断面　45×



8．漆の断面　450×

T－17　出土の漆紙

# 中原（なかはら）遺跡ほか

# 例　　言

1．本書は，岡山県教育委員会が，津山市金井ほかにおける土地改良総合整備事業（金井地区）に伴い，昭和63年度国庫補助を受けて実施した「中原遺跡ほか」の発掘調査報告書である。

2．遺跡は，津山市中原ほかに所在する。

3．発掘調査にあたっては，専門委員の鎌木義昌（岡山理科大学理学部長，岡山県文化財保護審議会委員）・近藤義郎（岡山大学文学部教授，岡山県文化財保護審議会委員）・水内昌康（岡山県文化財保護審議会委員）の各氏から指導・助言を受けた。

4．発掘調査は岡山県古代吉備文化財センター職員内藤善史が担当し，昭和63年10月24日から平成元年2月3日まで実施した。

5．発掘調査にあたっては，津山市役所・津山市教育委員会・地権者関係各位から多大な援助を受けた。

6．本書の執筆・編集は，岡山県古代吉備文化財センター（岡山市西花尻1325－3）において，内藤が行った。

7．本書に使用したレベルの数値は海抜高である。方位は，第1・2図が真北，他は磁北である。

8．本書第2図に使用した地形図は，建設省国土地理院発行の25,000分の1地形図（津山東部）を30,000分の1に縮尺複製したものである。

9．出土遺物・実測図・写真等は岡山県古代吉備文化財センターにおいて保管している。

# 目　　次

例　言
目　次
第１章　地理的・歴史的環境……31
第２章　調査の経緯……33
第３章　発掘調査の概要……35
第４章　まとめ……48

# 図　目　次

第１図　遺跡位置図（黒丸印)（１／2,000,000)…31
第２図　周辺遺跡分布図（１／30,000）……32
第３図　中原地区トレンチ位置図（１／3,000)…36
第４図　Ｔ－０～７土層断面図（１／80）……37
第５図　Ｔ－８～15土層断面図（１／80）……38
第６図　Ｔ－16・17平・断面図，Ｔ－18～22土層断面図（１／80）……39
第７図　Ｔ－23・24・26平・断面図，Ｔ－25・27土層断面図（１／80）……40
第８図　Ｔ－28～30土層断面図（１／80）……41
第９図　中原地区トレンチ出土遺物（１／２・１／４）……42
第10図　金井地区トレンチ位置図（１／3,000)…43
第11図　Ｔ－31～35平・断面図（１／80）・Ｔ－34柱穴（１／40）……44
第12図　Ｔ－36～42土層断面図，Ｔ－43平・断面図（１／80）……45
第13図　Ｔ－44～46平・断面図（１／80）……46
第14図　金井地区トレンチ出土遺物（１／４）…47
第15図　発掘調査対象範囲および遺跡範囲想定図（１／8,000）……48

# 図　版　目　次

図版１－１　中原地区全景（北から）
図版１－２　金井地区全景（西から）
図版２　中原地区Ｔ－０～７
図版３　中原地区Ｔ－８～15
図版４　中原地区Ｔ－17～22・24・25
図版５　中原地区Ｔ－27～30，金井地区Ｔ－31・32・34器台・35
図版６　金井地区Ｔ－36～43
図版７　金井地区Ｔ－45・46，中原地区Ｔ－21埋め戻し，出土遺物(1)
図版８　出土遺物(2)

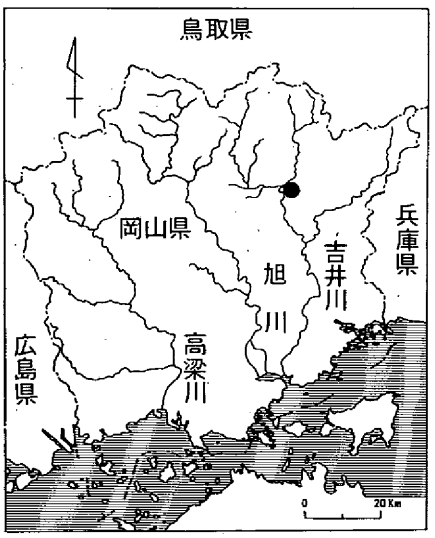
# 第１章　地理的・歴史的環境

今回発掘調査を実施した「中原遺跡ほか」は，津山市金井，中原に所在する。

上斎原村の中国山地中に源を発する岡山県の三大河川の一つ吉井川は，津山盆地に入り東へ進路を変え，支流の加茂川を合流して再び南下する。この屈曲した東側にある和気山からは北に向って派生する幾本もの尾根が丘陵を形成している。「中原遺跡ほか」はこれらの丘陵群の最も北東側に位置し，中原と金井の間に大きな谷が入り込んでいる。

津山市内における集落遺跡は弥生時代前期にさかのぼるが，この中原遺跡周辺の津山市東部地域においては，弥生時代中期の西吉田遺跡（註１）・金井別所遺跡（註２）・深田河内遺跡（註３）等が最も古い時期と考えられる。この他に一貫西遺跡・崩レ塚遺跡においても弥生時代中期の集落遺跡が確認されている。これに続く弥生時代後期の遺跡としては，津山中核工業団地内の遺跡調査により一貫東遺跡・大畑遺跡・小原遺跡等が確認され，この和気山から北に延びる丘陵上に弥生時代中期から後期にかけて集落が密集してくる。古墳時代にはいるとこの周辺でも多くの古墳が築かれる。柳谷古墳（註４）は横穴式石室を主体部とした６世紀末から７世紀初頭頃に築造されたと考えられる小円墳であるが，銀象嵌頭椎大刀把頭，鞘金具が出土している。また前方後円墳と円墳で構成されている茶山古墳群（註５）の築造時期は６世紀初頭と推定されている。この他にいずれも５世紀代と考えられる一貫東遺跡の古墳群，５世紀末頃の方墳が２基と６世紀末頃の円墳が１基確認された一貫西遺跡，６世紀後半から７世紀初頭と考えられるクズレ塚古墳や崩レ塚古墳群，隠里古墳群，植木古墳群等多くの古墳群が周辺の丘陵上に存在している。また，すぐ南側の丘陵頂部には前方後円墳を中心とした金井古墳群がある。奈良時代に入るとこの地域において美作国分寺，美作国分尼寺が造営されたことは古代においてこの地域が重要なところであったことを窺わせるものである。

中原遺跡は里中原遺跡とも称され，かつて水田から弥生式土器が採集されている。その後，国道179号線の付替に伴う工事で，柱穴・溝等の遺構を確認し，弥生時代中期の集落址が丘陵平坦部全域にわたるものと推定された遺跡（註６）である。この時少量の須恵器も出土し，その後，周辺で勝間田焼等の土器片も採集され，弥生時代から中世にかけての複




第１図　遺跡位置図(黒丸印)(1/2,000,000)

合遺跡が想定されている。

註

註1　『西吉田遺跡』「津山市埋蔵文化財発掘調査報告第17集」津山市教育委員会　1985

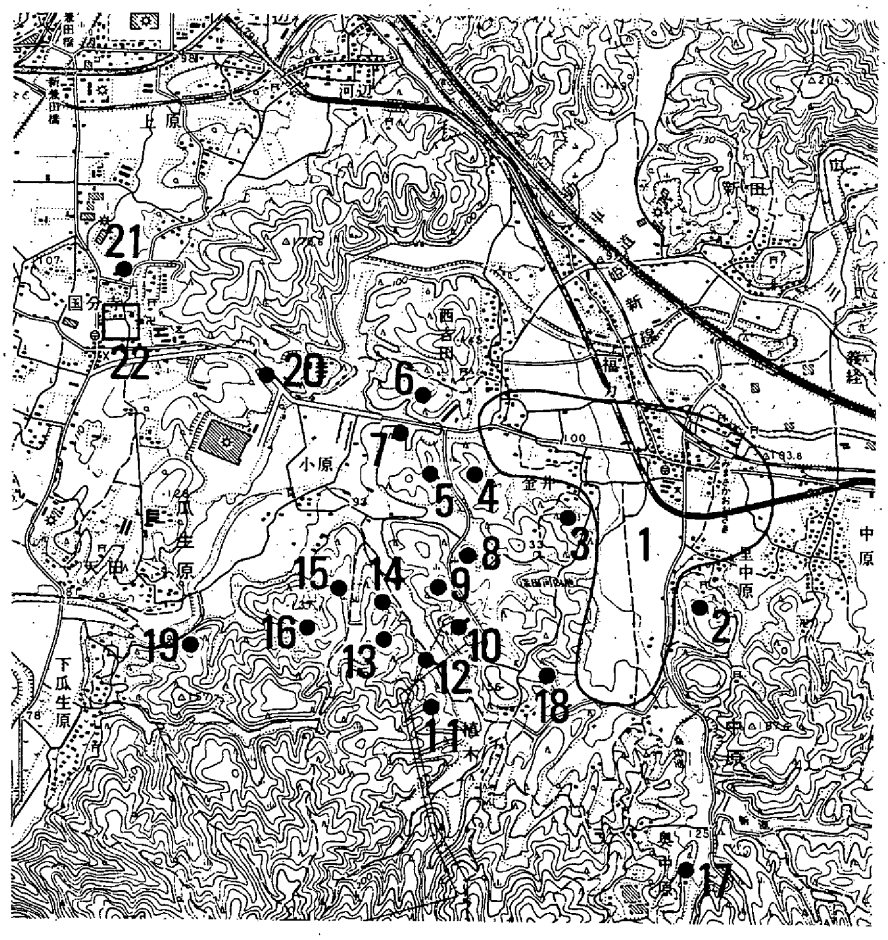
註2　『金井別所遺跡』「津山市埋蔵文化財発掘調査報告第25集」津山市教育委員会　1988

註3　『深田河内遺跡』「津山市埋蔵文化財発掘調査報告第26集」津山市教育委員会　1988

註4　『柳谷古墳』「津山市埋蔵文化財発掘調査報告第24集」津山市教育委員会　1988

註5　『茶山古墳群』「津山市埋蔵文化財発掘調査報告第27集」津山市教育委員会　1989

註6　「津山市大崎中原遺跡」『岡山県埋蔵文化財報告3』　岡山県教育委員会　1973




第2図　周辺遺跡分布図（1／30,000）

1．中原遺跡（里中原遺跡）
2．根ノ山古墳群
3．金井古墳群
4．一貫東遺跡
5．一貫西遺跡
6．西吉田遺跡
7．茶山古墳群
8．深田河内遺跡
9．別所谷遺跡
10．金井別所遺跡
11．崩レ塚古墳群
12．クズレ塚古墳
13．崩レ塚遺跡
14．柳谷古墳
15．大畑遺跡
16．小原遺跡
17．奥中原古墳群
18．植木古墳群
19．隠黒古墳群
20．長畝山古墳群
21．飯塚古墳
22．美作国分寺跡

# 第2章　調査の経緯

津山市金井，中原一帯において土地改良総合整備事業（金井地区）が計画されたのに伴い，昭和63年8月22日付けで大崎南土地改良区理事長本山明から津山市教育委員会を経由して，文化財保護法第57条の2第1項にもとづく協議文書が岡山県教育委員会に提出された。内容は土地改良総合整備事業（金井地区）予定地内において周知されている中原遺跡他の遺跡の取扱いについてである。関係機関による協議の結果，これらの遺跡について，工事着手前に確認調査を実施する。調査の結果重要な遺構等が発見された場合は，その保存等について別途協議することとなった。この協議結果にもとづき岡山県教育委員会は，工事施行前に遺跡の規模，状況等を明らかにし，遺跡の保護・保存を講ずるための基礎資料を得るため，昭和63年度国庫補助を受けて確認調査を実施することとなった。

発掘調査は，岡山県古代吉備文化財センターが，専門委員の指導・助言を得て昭和63年10月24日から平成元年2月3日まで実施した。

調査にあたっては，津山市役所，津山市教育委員会をはじめ地権者等関係各位から多大の御協力を得た。また，発掘作業にあたっては，地元有志の方々にご協力を得た。記して厚く御礼申し上げます。

**調査体制**

岡山県古代吉備文化財センター

| | |
|---|---|
| 所長 | 水田　稔 |
| 総務課長 | 佐々木清 |
| 調査第一課長 | 河本　清 |
| 文化財保護主任 | 内藤善史（調査担当） |

発掘作業員

赤坂虎夫・安藤　猛・稲垣光男・稲谷正一・清原可一・藤島　保・藤嶋　豊・森　康・龍門安三・衣笠宇多江・下山章子・下山艶子

**日誌抄**

昭和63年

10月24日(月)　器材搬入

25日(火)　テント設営　T－1・2掘り下げ

26日(水)　T－1・2・3掘り下げ

27日(木)　T－3・4・5掘り下げ，T－1・2・3写真撮影

28日(金)　T－5・6・7掘り下げ，T－1・2・3断面実測

11月1日(火) T－6・7・8・9掘り下げ，T－4・5・6写真撮影
2日(水) T－8・9・11掘り下げ，T－4・5・6断面実測
4日(金) T－10・11・12掘り下げ，T－7・9.写真撮影，断面実測
7日(月) T－10・12掘り下げ
8日(火) T－13・14掘り下げ，T－10・12写真撮影
9日(水) T－13・14掘り下げ
10日(木) T－13・14・15・16掘り下げ，T－13・14写真撮影
11日(金) T－15・16掘り下げ，T－8・11写真撮影，T－8・10断面実測
14日(月) T－0・16・17・18・19掘り下げ，T－15写真撮影，T－11・12断面実測
15日(火) T－0・17・19・20・21・22掘り下げ，T－13・14・15断面実測
16日(水) T－16・20・21・22・23・24掘り下げ，T－18・19・20写真撮影，T－18断面実測
17日(木) T－21・24・25掘り下げ，T－16・21・22写真撮影
18日(金) T－17・24・25・26掘り下げ，T－25写真撮影
21日(月) T－23・24・27・28・29・30掘り下げ，T－19・20・21・22断面実測
22日(火) T－24・28・29・30掘り下げ，T－17・23写真撮影
24日(木) T－28掘り下げ，T－0・24・26・27写真撮影
25日(金) T－29掘り下げ，T－28・29・30写真撮影，T－0断面実測
28日(月) テント移設，T－31・32掘り下げ
29日(火) T－31掘り下げ
12月1日(木) T－31・33・34掘り下げ
2日(金) T－33・34・35掘り下げ
12日(月) T－34・36・38・39掘り下げ
13日(火) T－36・37・38・39・40掘り下げ，T－39写真撮影
14日(水) T－37・38・40・41・43・45掘り下げ，T－39断面実測
15日(木) T－41・43・44・45掘り下げ，T－26・27・28・29断面実測
16日(金) T－42・43・44・45掘り下げ
19日(月) T－42・43・44・45掘り下げ，T－37・38・40・41写真撮影
20日(火) T－42・43・44・46掘り下げ，T－45写真撮影，T－40断面実測
21日(水) T－42・44・46掘り下げ，T－37・38断面実測，T－7埋め戻し
22日(木) T－42・44・46掘り下げ，T－33・34・35・36写真撮影，T－7・9埋め戻し
23日(金) T－46掘り下げ，T－9・10・12・13・18埋め戻し
26日(月) T－18・22・27・29埋め戻し
27日(火) T－33断面実測，T－27・29・33埋め戻し

平成元年

1月9日(月) T－36断面実測，T－33・36埋め戻し
10日(火) T－45掘り下げ，T－42写真撮影，断面実測，T－11・36・42埋め戻し
11日(水) T－45写真撮影，T－25断面実測，T－42埋め戻し
12日(木) T－25・42埋め戻し
13日(金) T－30断面実測，T－14・26・28・30埋め戻し
17日(火) T－14・15・26埋め戻し
18日(水) T－6・8・14・15埋め戻し
20日(金) T－6埋め戻し
21日土 T－24写真撮影，T－23・24断面実測，T－19・20埋め戻し
24日(火) T－16・17断面実測，T－8・17・23・24埋め戻し
25日(水) T－43・46写真撮影，T－41・45断面実測，T－16・38・41埋め戻し
26日(木) T－43断面実測，T－39・41・45埋め戻し
27日(金) T－43・44写真撮影，T－44・46断面実測，T－43・45・46埋め戻し
30日(月) T－35写真撮影，T－34・35断面実測，T－35・44埋め戻し
31日(火) T－31・32写真撮影，断面実測，T－32・34埋め戻し
2月1日(水) T－21・31埋め戻し
2日(木) テント撤収，器材片づけ，整備
3日(金) 器材片づけ，搬出作業

# 第3章　発掘調査の概要

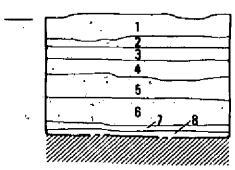
発掘調査の対象範囲は，水田もしくは丘陵端部の畑など低地に限られ，金井の集落がある低丘陵頂部は含まれていない。その為，この北へ延びる低丘陵を境として東と西に分断されている。今回はこの低丘陵から東側の部分を「中原地区」，西側を「金井地区」と仮称し，2m×2m～2m×5mのトレンチを設定，掘開して遺跡の範囲を確認する調査を行った。

## 第1節　中原地区

中原地区は調査対象範囲のほぼ全域が，中原遺跡（里中原遺跡）に含まれているところである。ここでは調査対象範囲内にT－0からT－30まで31本のトレンチにより遺跡の確認調査を行った。各トレンチの調査結果は以下のとおりである。

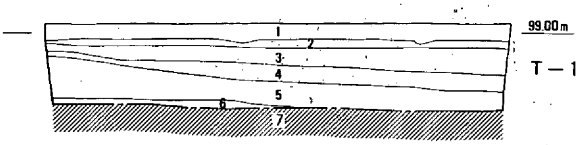
T－0～T－4は金井の集落がある丘陵の北東端に位置し，T－0は地表から70cm，T－1は40～70cmで中世の土器を含む包含層が20～40cm堆積し，80～120cmで緩やかに西から東に下がる黄褐色粘質土の基盤層となる。出土遺物としては包含層中に1・2の須恵器や5の勝間田焼等の土器片が弥生式土器等と伴に出土している。6は底部を糸切りした土師質の土器の台部片である。ここでは基盤層直上にまで勝間田焼の土器片が出土し，それ以前の包含層は確認できなかった。8は包含層の上層から出土した備前焼の擂り鉢の口縁片である。T－2は地表から80cmで中世の土器を含む層が20cm程認められ，その下は礫層となっているが，西側の丘陵に近いところでは一部暗灰黄色粘質微砂の基盤となる層が認められた。T－3は第3層の灰色粘質土中に土器片等が認められるものの，包含層はなくすぐ礫層となる。出土遺物としては，土器片の他に1の「至和元寶」（初鋳1054年）が1点出土している。T－4は表土下90～100cmの第5層から第7層にかけて中世の土器片が認められるが，その下は礫層と砂層の互層になっている。出土遺物としては10の土鍋の口縁片等がある。T－5～T－13は里中原と金井の2つの丘陵に挟まれた谷部に位置し，いずれも耕土・床土の下に粘質土を間に挟み，或いは挟まずに礫層もしくは礫層と砂層の互層となる。埋土中から礫と伴に弥生時代から中世にかけての土器片が少量出土しているが，いずれも細片で流されて堆積している様相を呈している。T－7・11の西部，T－12の中央部には，幅3m程の南北方向に流路をもつ溝状の遺構が認められ，現在調査区の西部を流れている川が，かつてはいろいろ流路を変えて流れていたものと考えられる。T－11からは堆積土中から黒曜石製の石鏃1が出土している。先端部を欠損しているが，基部に凹みをもち，残存長15.5mm・残存幅21.5mm・厚さ4.5mm・重さ1.40gを測る。T－14・

第3図　中原地区トレンチ位置図（1／3,000）



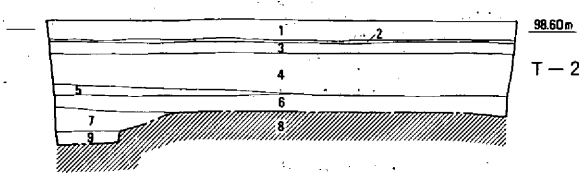

T－0

1．灰色粘質微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．黄灰色粘質土
4．淡茶灰色粘質土
5．茶灰色粘質土
6．暗茶灰色粘質土
7．暗黄灰褐色粘質土
8．黄褐色粘質土



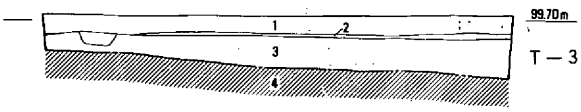

T－1

1．灰色粘質微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．黄灰色粘質土
4．茶灰色粘質土
5．暗茶灰色粘質土
6．黄灰褐色粘質土
7．黄褐色粘質土



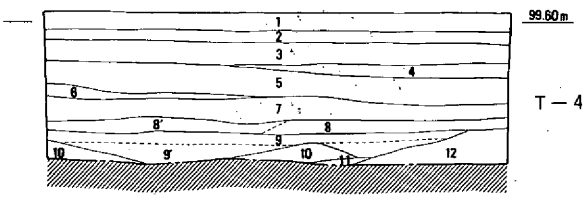

T－2

1．灰色粘質微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．淡黄灰色粘質土
4．淡茶灰色粘質土
5．灰褐色粘質土（礫含）
6．暗茶褐色粘質微砂（礫含）
7．暗灰黄色粘質微砂
8．礫層
9．青黄灰色粘質微砂



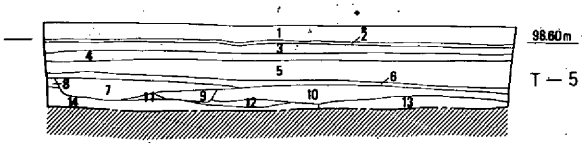

T－3

1．灰色粘質微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．灰色粘質土（礫含）
4．礫層



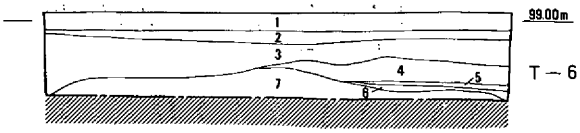

T－4

1．暗灰色微砂（耕土）
2．灰黄色粘質微砂
3．淡黄灰色粘質土
4．淡茶灰色粘質土
5．茶灰色粘質土
6．暗茶灰色粘質土
7．暗灰茶色粘質土（礫含）
8．黄褐色粘質土（礫含）
8′.淡茶褐色粘質土（礫含）
9．淡黄褐色微砂混り細砂
9′.淡黄灰色微砂混り細砂
10．淡灰色礫層
11．淡灰色粘質微砂
12．淡灰色礫層



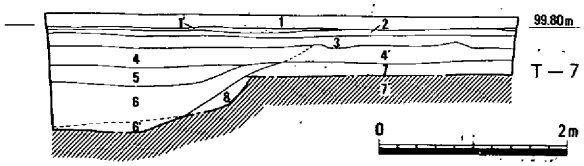

T－5

1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡黄褐色粘質微砂
3．灰色粘質微砂
4．灰色粘質微砂
5．茶灰色粘質微砂
6．暗灰黄色粘質土
7．暗茶褐色粘質土（礫含）
8．暗黄灰色粘質土（礫含）
9．黄灰色細砂
10．明黄褐色土（礫含）
11．暗茶灰色粗砂（礫含）
12．淡灰色細砂
13．淡灰色砂礫層
14．黄褐色砂礫層




T－6

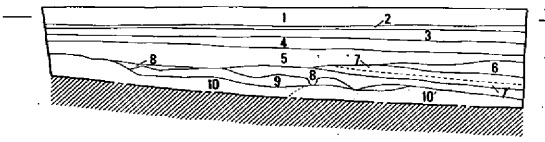
1．暗灰色微砂（耕土）
2．灰黄色粘質微砂
3．灰茶褐色礫層
4．淡灰色粘質土
5．淡灰色粘質土
6．黒灰色粘質土
7．灰色礫層



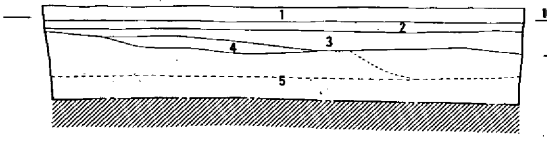

T－7

1．暗灰色微砂層（耕土）
1′.淡黄灰色微砂層
2．明黄褐色粘質微砂
3．淡灰色粘質土
4．淡灰黄色粘質土（小礫含）
4′.淡灰黄色粘質土（礫含）
5．明茶褐色粘質微砂
6．茶褐色粘質微砂
6′.淡青灰色細砂
7．灰黄色礫層
7′.灰色礫層
8．淡灰色細砂

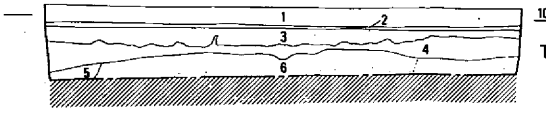
**第4図　T－0～7土層断面図（1／80）**



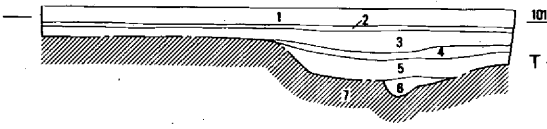

1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡黄褐色粘質微砂
3．淡黄灰色粘質微砂
4．淡黄灰色粘質土
5．黄灰色粘質土
6．灰黄色粘質土
7．淡茶灰色粘質土（礫含）
7′．淡茶灰色粘質微砂
8．暗紫灰色粘質土
9．黄褐色粘質微砂
10．黄褐色粘質土（礫含）
10′．淡青灰色粘質土（礫含）



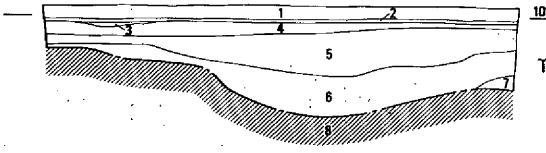

1．暗灰色微砂（耕土）
2．明黄褐色粘質微砂
3．（暗）灰黄色粘質土（礫含）
4．淡黄灰色粗砂（細砂混り）（礫含）
5．淡灰色礫層



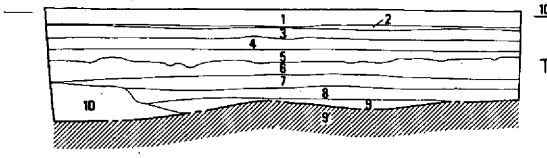

1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡灰黄色粘質土
3．灰色粘質土
4．淡灰黄色粘質土（礫含）
5．淡黄灰色粘質土
6．黄灰色粘質土（礫含）



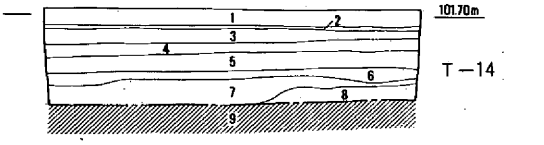

1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡灰黄色粘質土
3．淡（黄）灰色粘質土
4．灰黄色粘質土
5．黒灰色粘質土（礫含）
6．暗黄灰色中砂
7．明黄褐色粘質微砂（礫含）



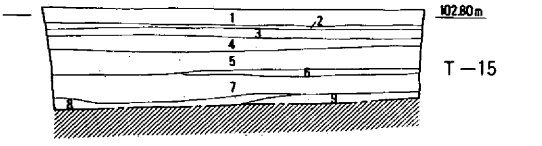

1．暗灰色微砂（耕土）
2．明灰黄色粘質土
3．淡黄灰色粘質土
4．黄灰色粘質土
5．淡茶灰色粘質土
6．淡灰黄色シルト
7．淡茶灰色シルト
8．淡黄灰色粘質土（礫含）



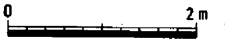

1．暗灰色微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．淡灰色粘質微砂（礫含）
4．灰色粘質土（礫含）
5．暗灰色粘質土
6．淡黄灰色粘質土
7．黄灰色粘質土
8．暗紫灰色粘質微砂
9．淡紫灰色粗砂（礫含）
9′．黄灰色粗砂（礫含）
10．淡灰黄色粘質土



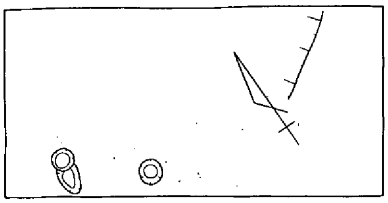

1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡灰黄色粘質土
3．茶灰色粘質土
4．灰茶褐色粘質土（礫含）
5．暗灰茶褐色粘質土
6．淡茶灰色粘質土
7．淡灰茶色粘質土
8．淡灰黄褐色シルト
9．淡灰黄色粘質土

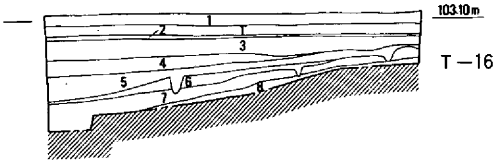



1．暗灰色微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．黄灰色粘質土（小礫含）
4．黄灰色粘質土（小礫含）
5．暗黄灰色粘質土（小礫含）
6．淡灰黄色粘質土
7．淡灰茶色粘質土
8．暗灰黄色粘質土
9．淡灰茶色粘質土

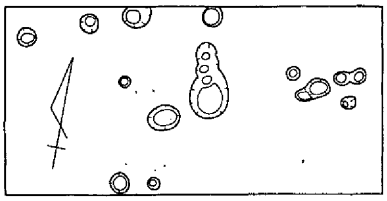


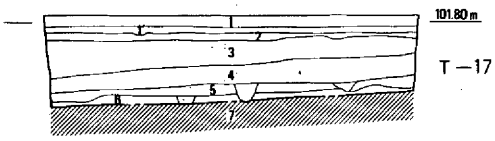

**第5図　T－8～15土層断面図（1／80）**



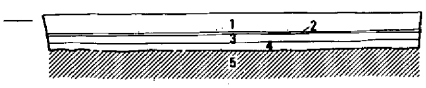



1．灰色細砂
1′．淡灰色粘質微砂 } (耕土)
2．黄褐色粘質微砂
3．茶褐色粘質微砂（小礫含）
4．茶灰褐色粘質土（小礫含）
5．暗灰黒褐色粘質微砂
6．灰茶色粘質土
7．淡灰黄褐色粘質土
8．淡黄褐色礫混り砂

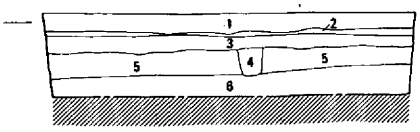




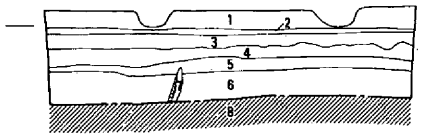

1．灰色細砂
1′．(淡)灰色粘質微砂 } (耕土)
2．(淡)灰黄褐色粘質微砂
3．茶灰褐色粘質微砂
4．暗茶灰褐色粘質土 } (小礫粒含)
5．暗黒灰茶色粘質微砂
6．(暗)灰茶褐色粘質微砂
7．暗黄褐色粘質土



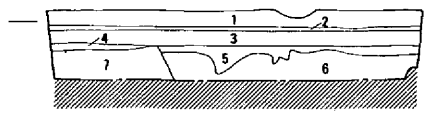

1．暗灰色微砂（耕土）
2．灰黄色粘質土
3．暗茶灰色粘質土（小礫含）
4．暗茶灰色粘質土
5．淡黄褐色シルト（礫含）



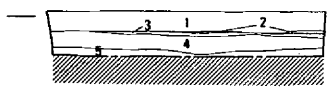

1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡灰黄色粘質微砂
3．暗茶灰色粘質土（小礫含）
4．淡灰黄色粘質土
5．淡黄褐色粘質微砂
6．淡黄褐色粘質土




1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡黄灰色粘質微砂
3．灰色粘質土（小礫含）
4．淡灰黄色粘質土
5．明黄褐色粘質微砂
6．淡黄褐色粘質土
7．淡青灰色粘質土
8．淡黄灰色粘質土（礫混り）

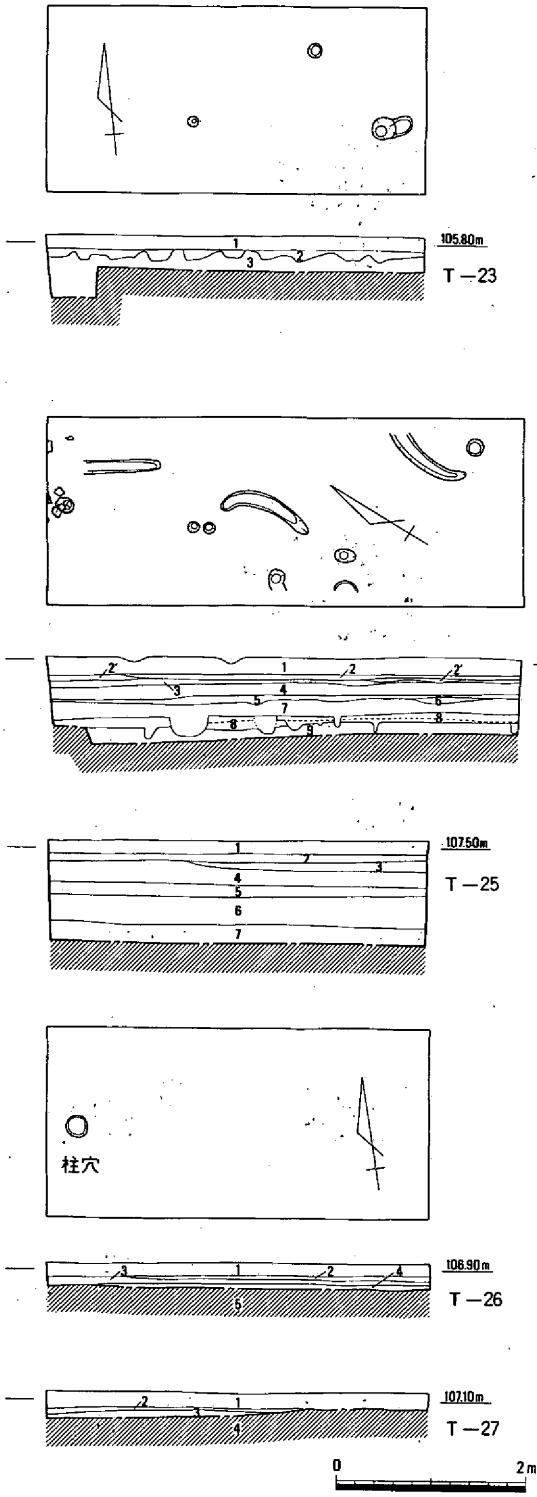



1．暗灰色微砂（耕土）
2．淡黄灰色粘質微砂
3．灰色粘質土（小礫含）
4．暗灰色粘質土
5．暗黄灰色粘質土
6．淡灰黄色粘質土
7．明黄褐色粘質微砂（礫混り）




1．暗灰色微砂（耕土）
2．暗灰黄色粘質土
3．暗灰色粘質土
4．淡黄褐色粘質土
5．明黄褐色粘質微砂（礫混り）

第6図　T－16・17平・断面図、T－18～22土層断面図（1／80）




1．黄灰色微砂
2．暗黄灰色粘質微砂 } (耕土)
3．淡黄褐色粘質土

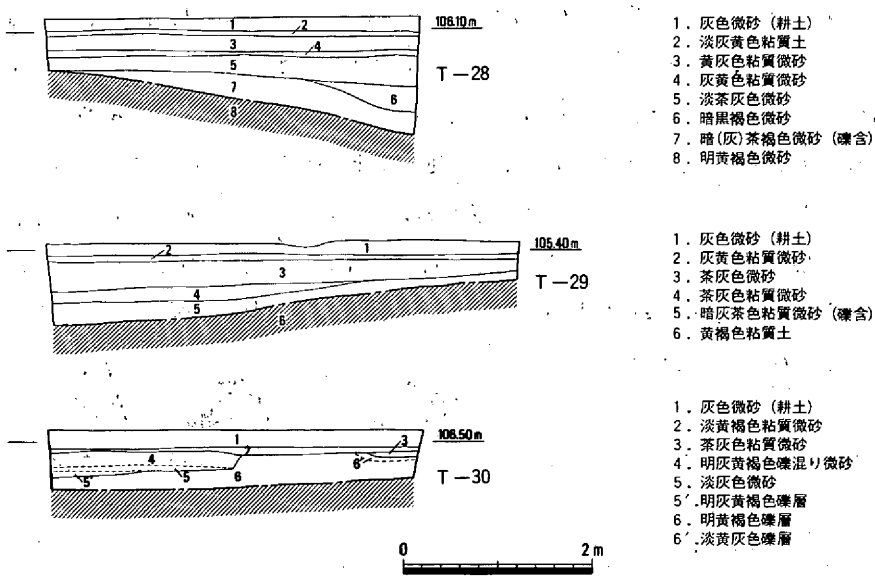
1．暗灰色微砂（耕土）
2．黄灰色粘質微砂
2′.灰黄色粘質微砂
3．灰色粘質微砂
4．淡茶灰色粘質微砂
5．茶灰色粘質土
6．暗灰茶褐色粘質微砂
7．暗黒褐色粘質土
8．灰茶色粘質土
9．淡黄褐色粘質微砂

1．淡黄灰色微砂（耕土）
2．淡(黄)灰色粘質土
3．淡灰色粘質微砂
4．灰色粘質微砂
5．茶灰色粘質微砂
6．暗茶灰色粘質土
7．暗灰色粘質土

1．灰色微砂
2．暗灰色微砂 } (耕土)
3．淡灰黄色粘質微砂
4．淡(黄)灰色粘質微砂
5．淡黄褐色粘質微砂（礫混り）

1．灰色微砂（耕土）
2．灰黄色微砂
3．暗灰茶色粘質微砂
4．暗黄褐色粘質微砂（礫含）

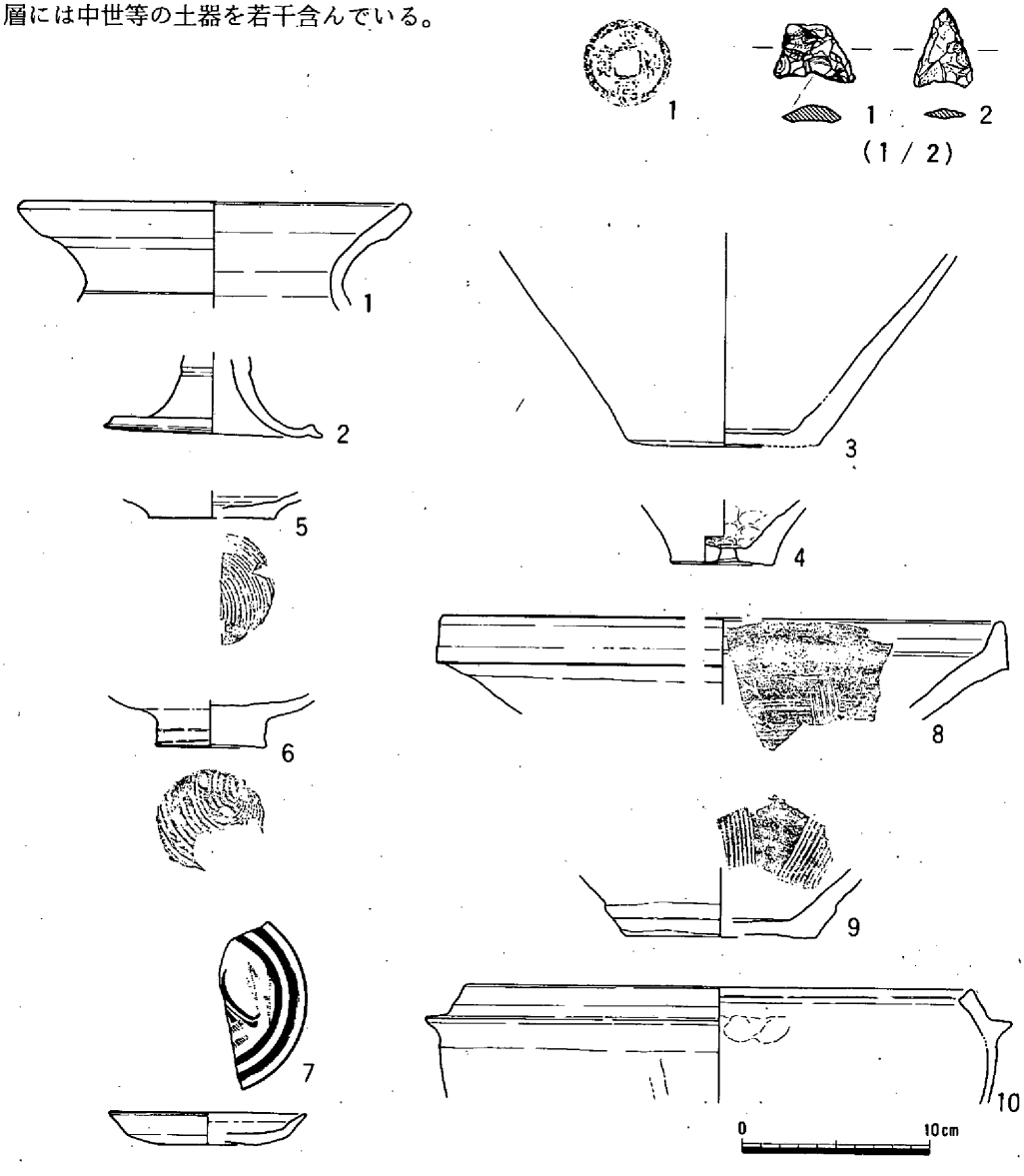
第7図　T－23・24・26平・断面図、T－25・27土層断面図（1／80）




**第8図　T－28～30土層断面図（1／80）**

15は里中原の集落がある丘陵端部に近く基盤は粘質土である。埋土中に弥生時代から中世にかけての土器の細片等が含まれているが，遺構は認められない。T－15の第6層の上面でサヌカイト製の石鏃2が1点出土している。基部にやや凹みをもち，長さ21.0mm・幅15.1mm・厚さ2.9mm・重さ0.66gを測る。T－16は丘陵端に位置し，礫混りの基盤層は東から西へ下がる斜面となっている。表土から40～70cmで，勝間田焼を含む包含層が認められ，表土下80cmの基盤層を切り込んで柱穴状の遺構が検出されている。T－17は，表土下40～70cmで厚さ40cm程の弥生時代から中世の土器を含む包含層が認められ，その下の表土下70～80cmで柱穴状の遺構が検出されているが，遺物がなく時期を限定することはできない。9は包含層の上層から出土した備前焼の擂り鉢の底部片である。この他に包含層中から鉄滓が出土している。T－18～T－22は谷部に位置し，いずれも包含層は認められず，基盤層は礫混りの粘質土である。表土から30～40cmの中・近世の埋積土中において，T－19～21で新しい時期の柱穴状遺構が認められたが，その他に遺構は検出されていない。また，遺物もほとんど出土していない。7はT－18の耕作土直下から出土した同安窯系の青磁皿で，見込みに櫛描文が抽かれている。T－23～T－30は里中原の集落のある丘陵西端の河岸段丘上に位置している。T－23は地表から20cmの耕作土直下において古墳時代および中世と考えられる柱穴が検出されているが，包含層は削平されて残っていない。T－24は表土から40cmで弥生時代の包含層が認められ，3・4の甕形土器の底部等の土器片が出土している。この包含層下において，溝・柱穴等の遺構が検出されているが，これらの遺構に伴う遺物は認められず，時期等は判然としないものである。T－25は耕作土下に

粘質土が堆積し，表土下100cmの暗灰色粘質土中において，弥生時代から中世にかけての土器片等がみられ，ここに谷もしくは大きな川が入り込んでいるものと推定される。T－26・27・30はいずれも耕作土の下は礫層または礫混りの基盤層となり，包含層は後世の削平を受けて遺存していない。遺物もほとんど出土していない。T－26では地表から25cmの耕土直下の基盤層において直径22cm・深さ28cmを測り暗灰茶褐色粘質微砂が堆積した柱穴が1本検出されている。遺物がなく時期は判然としないが，埋土から中世頃と推定される。T－28・29はいずれも河岸段丘の端部に位置し，西に向って礫層の基盤層が下がっている。T－28の西部にみられる第6層には中世等の土器を若干含んでいる。

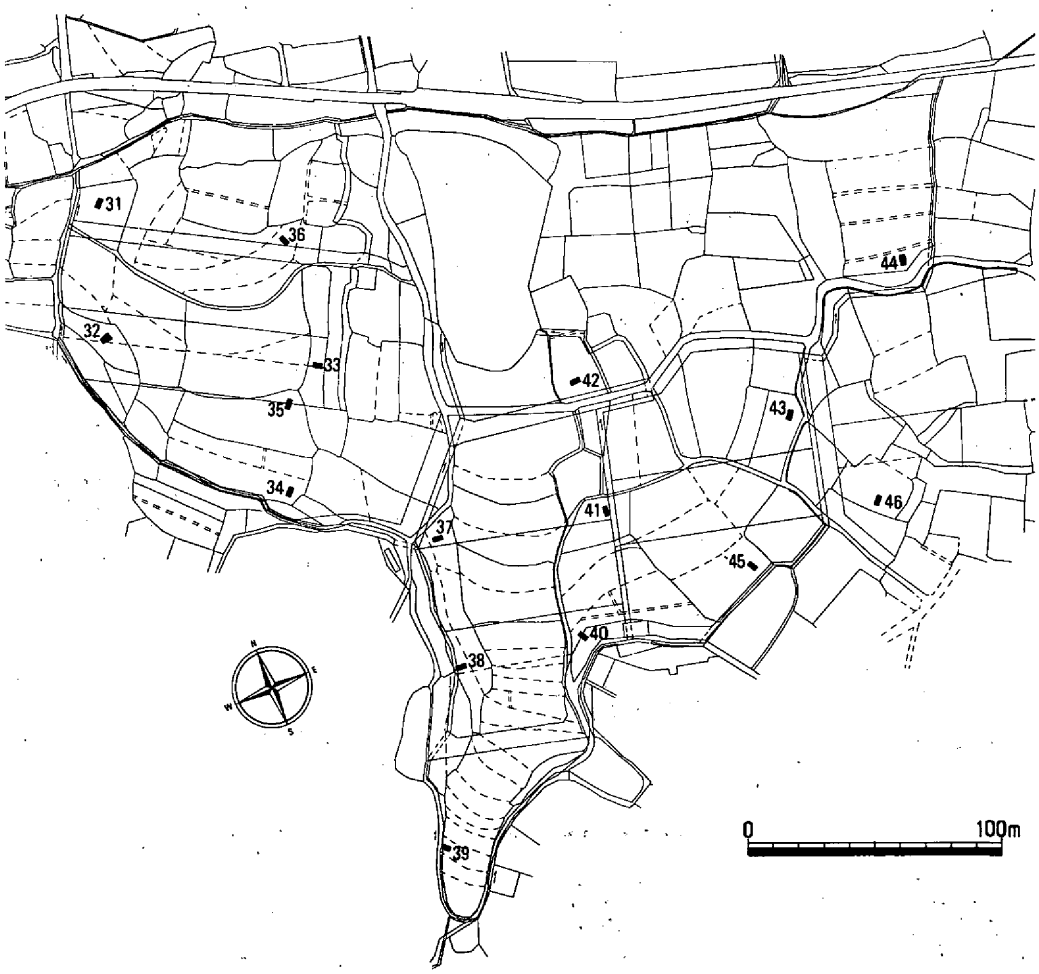



第9図　中原地区トレンチ出土遺物（1／2・1／4）

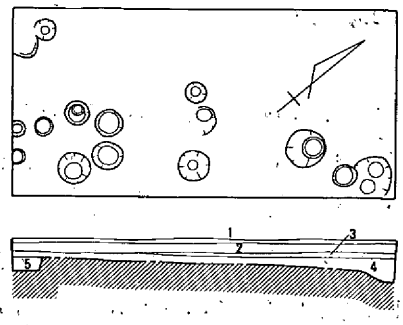
# 第2節　金井地区

金井地区は北側の一部が中原遺跡（里中原遺跡）に含まれ，南側は一貫東遺跡の北端部分にあたっている。ここでは調査対象地域内にT－31からT－46まで16本のトレンチにより遺跡の確認調査を行った。各トレンチの調査結果は以下のとおりである。

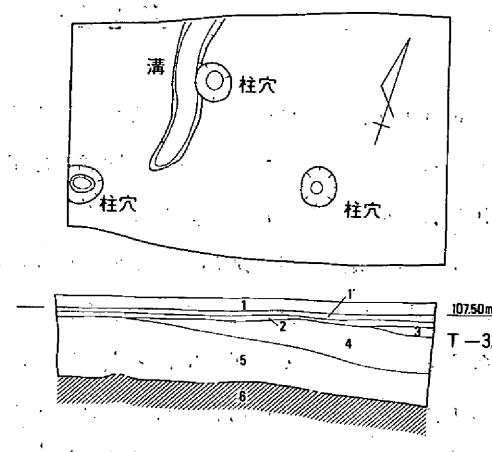
T－31・32は一貫東遺跡のある丘陵の先端部に位置している。T－31では地表下20cmの耕土直下に勝間田焼を含む包含層が10cm程認められ，その下に弥生時代から中世にかけての柱穴が多く検出されている。T－32は表土下20cmの耕土直下から北に向って下がり気味に弥生時代から中世の土器を含む包含層が認められ，表土下90cmの基盤層において中世を中心に溝・柱穴等の遺構が検出されている。T－33は，包含層は認められないが，表土下30cmの地山面において



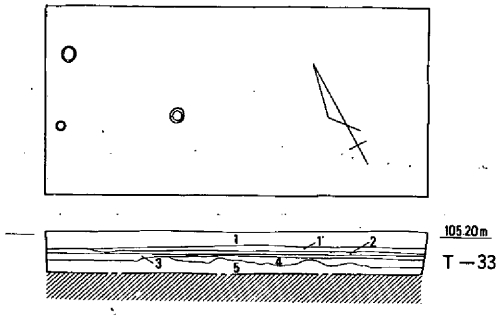

第10図　金井地区トレンチ位置図（1／3,000）



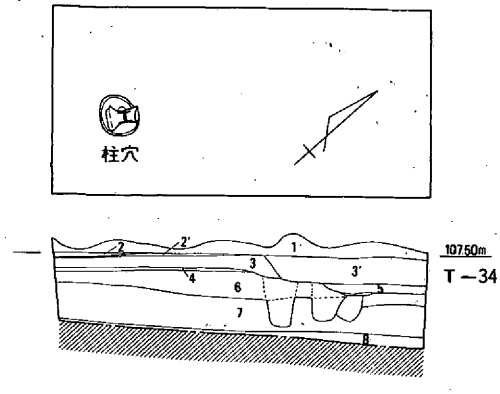

1．灰色微砂（耕土）
2．明黄褐色粘質土
3．淡灰色微砂
4．淡灰茶褐色粘質微砂
5．淡黄褐色粘質微砂



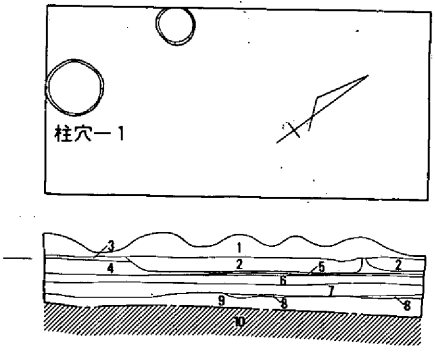

1．淡黄灰色細砂
1′．淡黄灰色粘質微砂 } （耕土）
2．黄褐色粘質土
3．淡灰茶褐色微砂淡灰色微砂混合
4．淡灰茶褐色微砂
5．灰茶褐色微砂
6．淡黄褐色粘質微砂



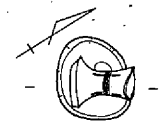

1．黄灰色微砂
1′．灰色微砂 } （耕土）
2．にぶい黄褐色粘質微砂
3．灰茶色粘質微砂
4．淡黄灰色弱粘質微砂
5．明黄褐色粘質微砂

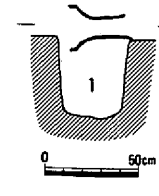



1．灰色細砂（耕土）
2．黄灰色粘質微砂
2′．黄褐色粘質微砂
3．淡灰色微砂
3′．淡灰色微砂黄褐色微砂混合
4．暗黄褐色粘質微砂
5．淡茶灰色微砂
6．暗茶褐色粘質微砂
7．明茶褐色粘質微砂
8．淡黄褐色粘質微砂



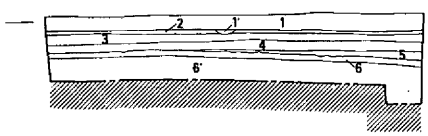
1．灰色細砂（耕土）
2．茶褐色微砂（炭等含む　造成土？）
3．淡黄褐色粘質土
4．淡灰色粘質微砂
5．淡灰黄色粘質微砂
6．淡茶灰色粘質微砂
7．淡灰茶色粘質微砂
8．淡茶灰色粘質微砂
9．淡茶灰色粘質微砂
10．明黄褐色粘質土



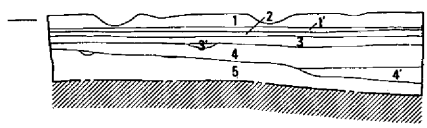



1．暗灰茶褐色粘質微砂

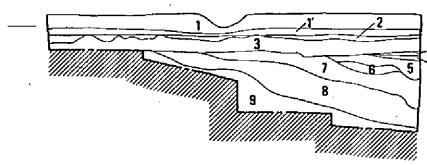
**第11図　T－31～35平・断面図（1／80）、T－34柱穴（1／40）**



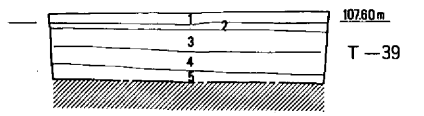

1．暗灰色微砂 } (耕土)
1′.黄灰色微砂
2．淡灰黄色粘質微砂
3．灰黄色粘質微砂
4．淡茶灰色粘質微砂
5．淡灰茶色粘質微砂
6．明灰黄色粘質土
6′.淡青灰色粘質土



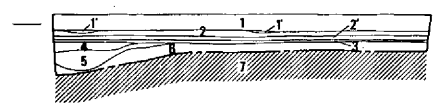

1．暗茶灰色微砂 } (耕土)
1′.暗灰色粘質微砂
2．灰黄色粘質微砂
3．茶灰色粘質微砂
3′.灰茶色粘質微砂
4．淡灰茶色粘質微砂
4′.灰茶色粘質微砂
5．黄白色粘質土



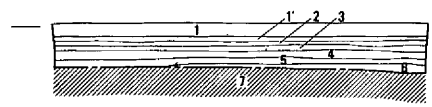

1．淡灰茶色微砂（耕土）
1′.(淡黄)灰色粘質微砂
2．黄灰色粘質微砂
3．淡灰黄褐色弱粘質微砂
3′.淡灰黄褐色粘質微砂
4．淡黄灰色粘質土
5．淡灰黄色粘質微砂
6．暗茶灰色粘質土
7．黒灰色微砂
8．茶褐色微砂
9．黄褐色粘質微砂



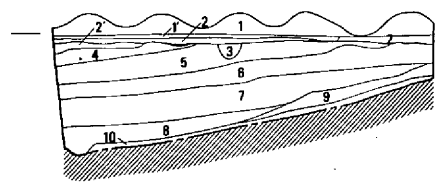

1．淡灰黄褐色粘質微砂（耕土）
2．淡黄灰色粘質土
3．灰色粘質土
4．暗灰色粘質土
5．淡灰黄色粘質土



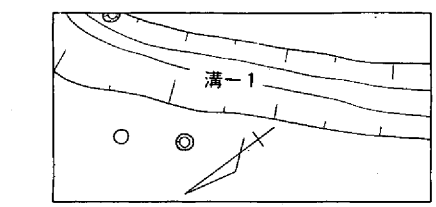

1．暗灰色微砂（耕土）
1′.灰色微砂
2．明黄褐色粘質微砂
2′.黄灰色粘質微砂
3．淡黄灰色粘質微砂
4．(淡)黄白灰色粘質土
5．淡灰茶色粘質微砂
6．淡灰(白)黄色粘質微砂
7．明黄褐色粘質微砂



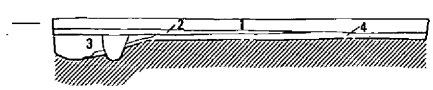

1．暗灰色微砂 } (耕土)
1′.暗灰色粘質微砂
2．黄褐色粘質微砂
3．淡灰色粘質土
4．淡茶灰色粘質微砂
5．淡灰黄色粘質微砂
6．淡茶灰色粘質土
7．淡黄褐色粘質土（礫含）




1．灰色微砂
1′.淡灰色粘質微砂 } (耕土)
2．明黄褐色粘質微砂
2′.明灰黄褐色粘質土 } (礫含)
3．淡灰茶色微砂（炭含）
4．淡茶灰色微砂
5．茶灰色粘質微砂
6．暗灰茶褐色粘質微砂 } (礫含)
7．灰茶褐色粘質微砂
8．暗黒灰褐色粘質微砂（小礫含）
9．明灰茶色粘質土
10．淡黄褐色粘質土

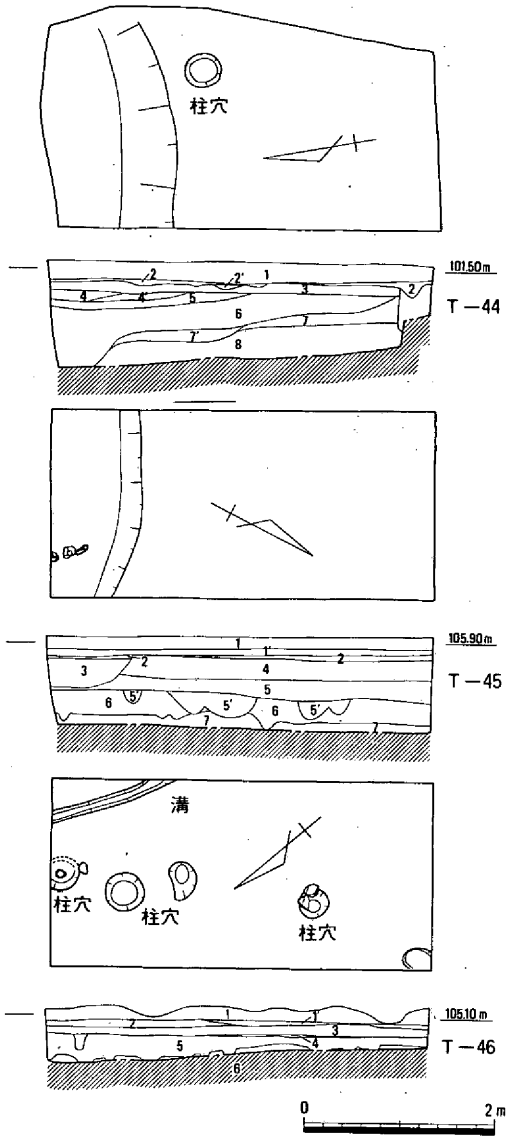



1．(暗)灰色微砂（耕土）
2．灰茶色微砂
3．灰茶褐色微砂（溝－1）
4．淡灰黄色粘質土




0　2 m

第12図　T－36～42土層断面図、T－43平・断面図（1／80）




1．灰色微砂
2．淡灰色粘質土 } (耕土)
2′.淡黄灰色粘質土
3．淡灰黄色粘質微砂
4．淡茶灰色粘質微砂
4′.淡灰茶色粘質微砂
5．灰茶褐色粘質微砂
6．灰茶褐色粘質微砂（礫混り）
7．茶灰色粘質土（礫含）
7′.茶灰色粘質微砂
8．暗灰茶褐色粘質微砂

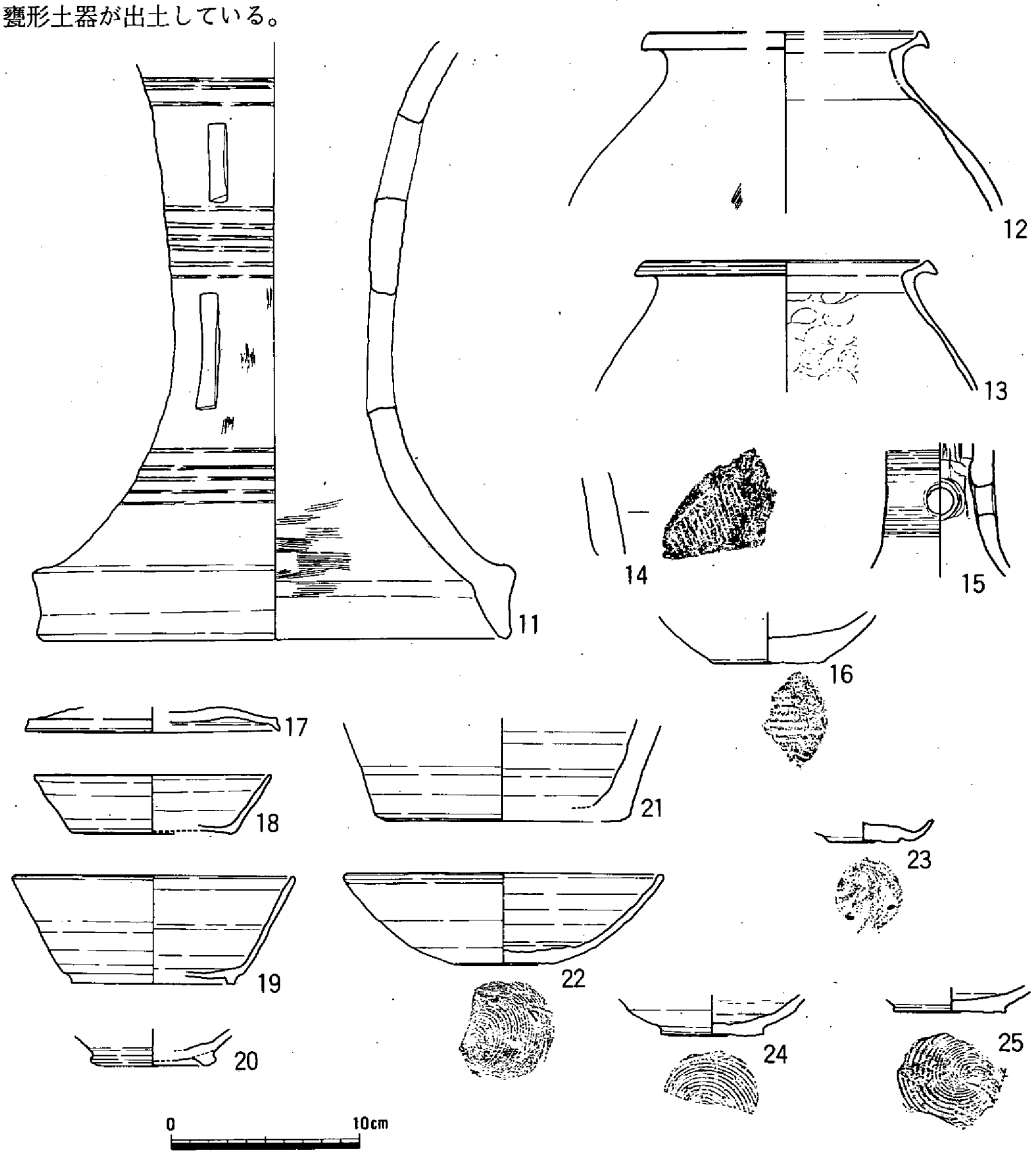
1．灰色微砂
1′.灰色粘質微砂 } (耕土)
2．淡(灰)黄褐色粘質微砂
3．黄灰色粘質微砂
4．暗茶褐色微砂
5．暗茶褐灰色粘質土
5′.暗茶褐灰色粘質微砂
6．黄褐灰色粘質微砂
7．明黄褐色粘質微砂

1．灰色微砂
1′.淡灰色粘質微砂 } (耕土)
2．黄灰色粘質微砂
3．淡黄灰色微砂
（黄白色粘質土のブロック含）
4．淡茶灰色粘質微砂
5．暗茶灰色粘質微砂
6．明黄褐色粘質微砂

**第13図　T－44～46平・断面図（1／80）**

中世と思われる柱穴が検出されている。T－34は表土下50～60cmで弥生時代から中世の土器を含む包含層が認められ，その中から下の柱穴に落ち込む状態で弥生時代後期の器台形土器 11 が出土している。T－35は包含層は認められないものの表土下70cmの地山面において直径60cm，深さ35cmを測り，明茶褐色粘質微砂で埋っている柱穴－1が検出されている。T－36は湿地に近い堆積を示し遺構は認められない。T－37～42は一貫東遺跡のある丘陵と金井の集落がある丘陵に挟まれた深い谷部にあたり，遺物はいずれも細片で量もごく僅かである。遺構等も全く認められない。T－43～46は金井の集落がある丘陵の北西端部に位置している。T－43では表

土下20cmの耕土直下で勝間田焼を含む溝－１・柱穴等が検出されている。Ｔ－44は北に向って下がる斜面堆積で，表土下60cmで弥生時代から中世の土器を含む包含層が認められ，表土下110cmの基盤層において直径40cm，深さ20cmを測る柱穴が１本検出されている。Ｔ－45・46では表土下20～30cmのほぼ耕作土直下で中世の包含層が認められ，表土下40cm程の基盤層において弥生時代から中世にかけての溝・柱穴等の遺構が検出されている。　金井地区のおもな遺物としては，Ｔ－32から17～19・22の須恵器・勝間田焼が，Ｔ－44から14の弥生時代の器台片や20・21・23～25の古代から中世にかけての土器がある。Ｔ－45からは12・13・16の弥生時代中期の甕形土器が出土している。

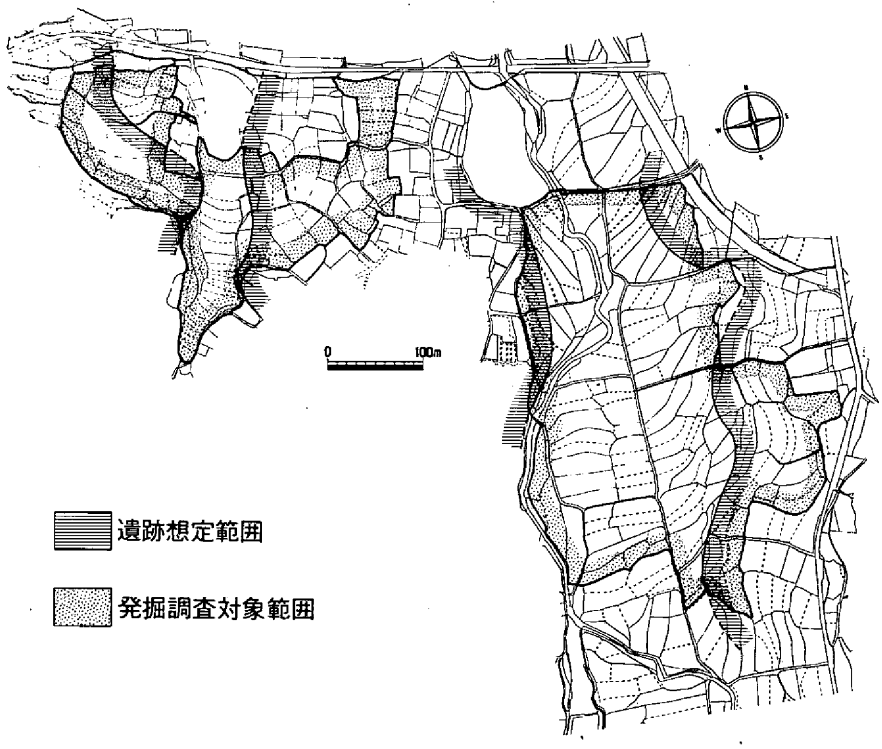



第14図　金井地区トレンチ出土遺物（１／４）

# 第4章　まとめ

今回の確認調査においては，従来中原遺跡（里中原遺跡）として大きく囲われていた遺跡地内をはじめ，ほぼ全域の耕作土中或いは埋積土中から土器片等の遺物が出土している。このうち里中原の集落のある丘陵の西端部は河岸段丘を呈し，北半ではこの河岸段丘上および裾部に包含層が認められ，柱穴等の遺構の遺存している。また，南半は畑等による削平を受け耕作土直下で地山となるが一部に深い柱穴等の遺構が遺存していることが明らかになった。一方，一貫東遺跡の北端部は，かなり低くなった丘陵の先端部まで柱穴等の遺構が遺存し遺跡がこの付近まで延びていることが明らかになった。さらに，現在金井の集落がある丘陵についても東端部・西端部とも包含層が確認され，西側については弥生時代中期から中世にかけてかなりの遺構が遺存していることが明らかになった。しかし，里中原と金井の集落の間の谷は，流れ込みによる遺物はみられるものの遺構は遺存していない。また，金井と一貫東遺跡の間の谷部にも遺跡が存在していないことが明らかになった。

出土遺物は全体としてあまり多くないが，弥生時代から中世にかけての土器が出土している。




第15図　発掘調査対象範囲および遺跡範囲想定図（1／8,000）

図版1

1．中原地区全景（北から）

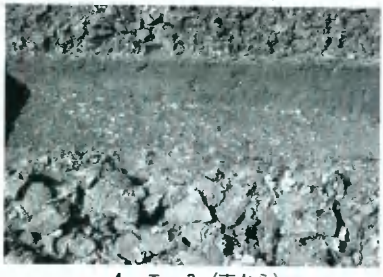
2．金井地区全景（西から）

# 図版 2

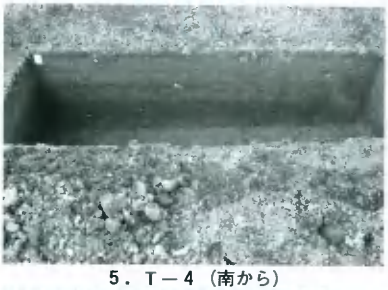
1．T－0（南から）

2．T－1（南から）

3．T－2（南西から）



4．T－3（南から）



5．T－4（南から）

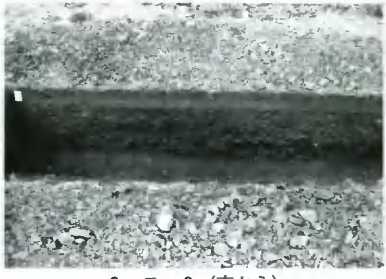
6．T－5（南西から）

7．T－6（西から）

8．T－7（南から）

図版 3

1．T－8（南西から）



2．T－9（南から）

3．T－10（南西から）

4．T－11（北西から）

5．T－12（南東から）

6．T－13（北西から）

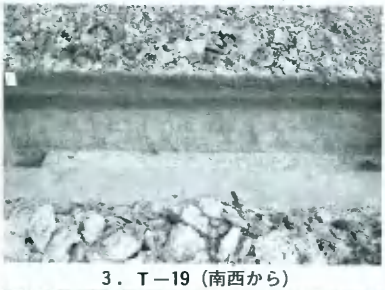
7．T－14（北西から）

8．T－15（南西から）

# 図版 4

1．T－17（南西から）

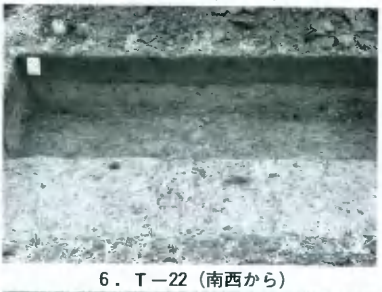
2．T－18（南西から）



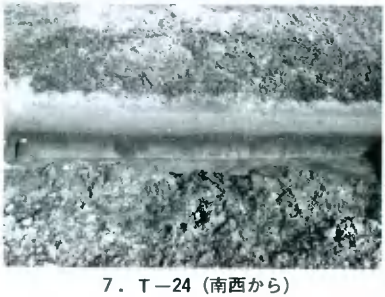
3．T－19（南西から）

4．T－20（西から）

5．T－21（北西から）



6．T－22（南西から）



7．T－24（南西から）

8．T－25（南東から）

図版 5

1．T－27（南西から）

2．T－28（北東から）

3．T－29（南西から）

4．T－30（西から）

5．T－31（南から）

6．T－32（南から）

7．T－34器台（南東から）

8．T－35（南から）

# 図版6

1．T－36（東から）

2．T－37（南西から）

3．T－38（南西から）

4．T－39（南西から）

5．T－40（西から）

6．T－41（南東から）

7．T－42（南から）

8．T－43（北から）

図版 7

1．T－45（南東から）

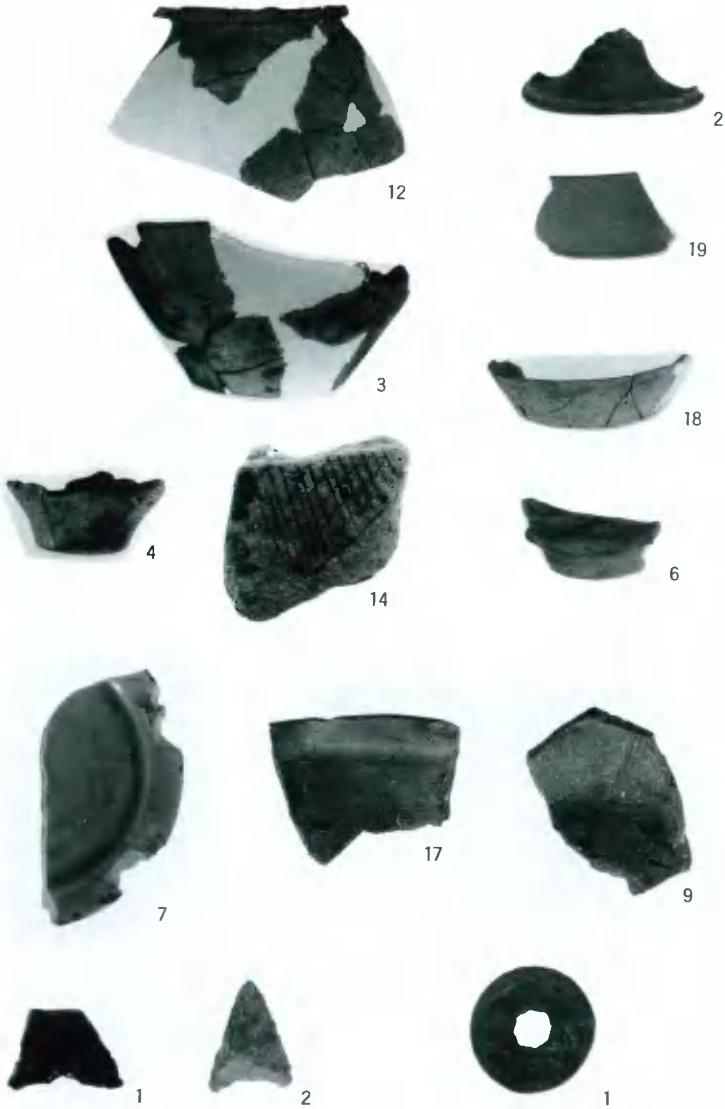
2．T－46（北から）

3．T－21埋め戻し（南から）

4．T－21埋め戻し（南から）

5．出 土 遺 物(1)

# 図版 8




出土遺物(2)

岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 73

# 友野散布地
# 中原遺跡ほか

平成元年3月15日　印刷
平成元年3月27日　発行

編　集　岡山県古代吉備文化財センター
発　行　岡山県教育委員会
印　刷　柳本印刷株式会社